



Nara Women's University

奈良女子大学 大学院案内

2025

● 2024年度 秋季入学者 ● 2025年度 入学者

大学院人間文化総合科学研究科
博士前期課程・博士後期課程



Contents

大学院の紹介

- ①メッセージ（学長及び人間文化総合科学研究科長）…………… 1
- ②沿革・基本理念・目的…………… 2

大学院の教育・研究

- 博士前期課程…………… 5
- 専攻の概要…………… 6

〔人文社会学専攻、言語文化学専攻、人間科学専攻、食物栄養学専攻
心身健康学専攻、情報衣環境学専攻、住環境学専攻、生活文化学専攻
数物科学専攻、化学生物環境学専攻、生活工学共同専攻〕

- 博士後期課程…………… 19
- 専攻の概要…………… 20

〔人文科学専攻、自然科学専攻、生活環境科学専攻〕

- 教員の研究領域…………… 24

キャリア形成・支援

- ①取得できる学位及び資格…………… 37
- ②単位互換制度…………… 38
- ③長期履修学生制度…………… 39
- ④再チャレンジ型女性研究者支援制度（博士後期課程）…………… 39
- ⑤博士前期課程修了者博士号取得支援制度（博士後期課程）…………… 40
- ⑥奈良女子大学次世代研究者プログラム
SGC-NEXUS（博士後期課程）…………… 40
- ⑦教育方法の特例制度…………… 40
- ⑧入学料・授業料免除及び奨学金…………… 40
- ⑨キャリア形成支援…………… 41
- ⑩学業・研究とライフイベントの両立、キャリア開発支援…………… 42
- ⑪修了者の進路…………… 43
- ⑫大学院修了者の主な就職先企業等名一覧…………… 44

- 学位取得者の論文題目一覧（2023年3月修了者）…………… 45

- 学位取得者の論文題目一覧（2022年9月修了者）…………… 45

- 在学者・修了者の声…………… 46
- 入試情報…………… 48
- 大学までのアクセス…………… 49

1 メッセージ



奈良女子大学長 高田 将志

本学大学院は、令和2年度に博士後期課程の組織改編を行い、博士前期課程も含めて名称を「人間文化研究科」から「人間文化総合科学研究科」へと変更しました。そして「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」、「次世代研究者挑戦的研究プログラム」という2つの補助金事業に採択され、令和3年度から、博士後期課程入学者に対する経済的支援・キャリアパス支援事業がスタートしました。前述の2つの補助金事業は、令和6年度から新しい「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に統合され、本学ではこれをSGC-NEXUS(Shattering the Glass Ceiling - NEXUS)と呼んでリニューアルすることとなりました。本学のSGC-NEXUSプログラムでは、博士後期課程学生の経済的支援、修学・研究活動支援とともに、学位取得後のキャリアパスまでをサポートしています。

いわゆる理系の学問分野では、研究分野の専門性を生かしたキャリアパスの開拓に大学院博士前期課程への進学は欠かせません。その一方で、経済的な負担や学位取得後のキャリアパスへの不安から、博士後期課程への進学については必ずしも一般的ではありませんでした。しかし前述のような経済的支援、修学・研究活動支援、キャリアパス支援をセットにした事業により、大学院を取り巻く環境は、大きく変わりつつあります。また文理融合やいわゆる文系の学問分野でも、キャリアパスまでを見通したSGC-NEXUSのような事業は、博士前期～後期課程における修学・研究活動を希望する学生を強力にバックアップできる可能性があります。

本学大学院は、前述のSGC-NEXUS以外にも、博士前期課程、後期課程における各種の修学・研究支援制度の充実化をはかってきました。詳しくは大学院のHP(<https://www.nara-wu.ac.jp/daigakuin/index.htm>)をぜひご覧ください。本学大学院への入学を検討されている皆さん、上記のような各種の支援制度をうまく利用しながら、我々とともに、社会に貢献する高度な研究活動を展開しようではありませんか。教職員一同、皆さんの挑戦をお待ちしております。



大学院人間文化総合科学研究科長 遊佐 陽一

本学大学院博士後期課程(ドクターコース)は、2020年度から人文科学専攻、生活環境科学専攻、自然科学専攻、生活工学共同専攻の4専攻体制となり、研究科の名称は人間文化総合科学研究科となりました。新しい大学院博士後期課程では、学生の拠って立つ基本的な学問分野の原理や考え方を明確化するとともに、分野の壁を越えた先端的・融合的な研究活動も可能な教育体系が構築されています。

この組織改編によって、2014年度に実施した3学部の組織改編、2016年度にお茶の水女子大学と共同で実施した大学院生活工学共同専攻(博士前期・後期課程)の新設、2018年度に実施した大学院博士前期課程の組織改編と続いた一連の改革が完了し、大学の学部から大学院博士前期課程、博士後期課程へと繋がる一連の学びの体系が確立されたこととなります。さらに現在は、2022年度の工学部新設に続く、大学院工学専攻の設置に向けて、検討を続けています。

本学大学院は長い伝統を持ち、女性研究者・専門家を輩出してきましたが、現在もさらなる教育・研究環境の充実のための努力を日々続けています。長期履修学生制度や夜間・休日を含めた柔軟な教育カリキュラムの整備、キャリア開発のためのプログラム、子育て支援のためのサポート体制などはその例です。また学生への財政上の支援策として、博士後期課程では2021年度からSGC(shattering the glass ceiling; 女性の社会進出を阻み見えないガラスの天井を打ち砕く)フェローシップとSGC+プログラムが始まり、さらに2024年度からSGC-NEXUS(社会や後進との「つながり」)プログラムという、研究専念支援金(給与に相当)と研究費が支給され、博士後期学生が経済的な心配なく研究に専念できる制度が始まりました。他にも、博士前期・後期課程の授業料免除や奨学金制度に加え、博士前期課程修了者博士号取得支援制度、再チャレンジ型若手女性研究者支援制度といった、本学大学院博士後期課程入学を目指す際の入学金不徴収や既修得単位認定の支援制度等の制度を導入し、女性研究者の育成支援を行っています。詳しい内容はホームページで是非見て頂きたいと思います。

言うまでもなく、大学院は在籍する大学院生が主役です。自分達こそが、活力ある大学院をそして将来の日本を作り上げるキーパーソンなのだ、という主体的・意欲的な意識を持った皆さんに、入学していただけるよう期待しております。様々な問題を抱えるこの社会を変革していくためには、高い意識を持った皆さんが、科学的なものの見方を身に付け、その実践を通して、成長する必要があります。本学大学院では是非お会いしましょう。

2 沿革・基本理念・目的

奈良女子大学・大学院へ、ようこそ。

明治42年(1909)に創立された奈良女子高等師範学校の伝統を受け継ぐ奈良女子大学は、お茶の水女子大学と併せて日本で二つしかない国立女子大学の一つとして、社会のリーダーとなる女性の育成を目指して努力を重ねてきました。近年は、その建学の理念に沿って、より多くの多才な女性を社会に送り出すべく、大学院の充実化に取り組んできました。そして2020年4月から、大学院の名称を人間文化研究科から人間文化総合科学研究科へと変更し、併せて、博士後期課程比較文化学専攻、社会生活環境学専攻、共生自然科学専攻、複合現象科学専攻の4専攻を、人文科学専攻、生活環境科学専攻、自然科学専攻の3専攻に組織改編することとしました。この結果、本学大学院人間文化総合科学研究科の博士後期課程は、お茶の水女子大学と共同で運営している生活工学共同専攻を含めた4専攻体制として走り出すこととなりました。

上記のような本学大学院の姿勢は広く社会にも認められ、毎年、多くの新入生が入学しています。奈良女子大学大学院への入学者は、本学の学部卒業生が多いのはもちろんですが、他大学を卒業して入学してくる学生もかなりの数に上っています。また、本学が様々な海外の大学と交流協定を結び、国際交流を活発に進めていることを反映して、留学生も数多く入学しています。さらには、出産などで学業を中断せざるを得なくなる女性が少なくないことに鑑み、学業の再開を希望する女性をできる限り積極的に受け入れることを目指して社会人入試を実施しています。また、入学後の学業継続を容易にする「長期履修制度」も設けており、その結果、社会人学生もたくさん入学しています。2019年度からは、ライフイベント等により、本学や他大学の大学院博士後期課程を退学した経験を有する女性を対象として、博士号の取得を促進する「再チャレンジ型女性研究者支援制度」2020年度から本学大学院博士前期課程を修了した社会人の博士後期課程入学と博士号取得を支援する「博士前

期課程修了者博士号取得支援制度」も始まりました。以上のような大学院を取り巻く諸状況を反映して、出身校・出身国・年齢などが様々に異なる多様な院生たちが、対等・親密に交流し、共に学び、各自の研究を自由に進めているというのが、本学大学院の学風となっています。

このようなリベラルでアカデミックな大学院の雰囲気は、大学院人間文化総合科学研究科が、学部とは別の組織として運営される独立大学院であることとも関係しています。ただし、大学院人間文化総合科学研究科が独立した組織であるとはいえ、決して孤立している訳ではありません。研究科は、研究科長をリーダーとして大学院担当教員によって運営され、教育・研究の両面から、学部や各種センターとも緊密に連携しています。たとえば、研究がグローバル化した時代に必要不可欠な国際的研究活動は、国際戦略センターが積極的にサポートしていますし、幼稚園から高等学校レベルまでの教育実践を進める本学附属学校園や、その教育活動のサポートを担う教育システム研究開発センターなどは、教職志望の大学院生の“教育力”形成を継続的に支援しています。

また、博士後期課程へ入・進学する学生の方には、2021年度から「奈良女子大学博士号取得支援 SGC フェロウシップ」、「奈良女子大学博士後期課程学生支援 SGC+ プロジェクト」、さらには2024年度から「奈良女子大学次世代研究者育成プログラム SGC-NEXUS」の募集が始まり、採択された方には、研究専念支援金や研究費の助成が行われています。

以上のように、奈良女子大学大学院は、研究職を目指す人も、高度専門職業人を志向する人も、その持てる可能性のすべてを花開かせることができるように、全学的なバックアップ体制を整えています。主体性をもち、学問研究に対する真摯な情熱をもった意欲的な女性の挑戦を待っています。



1. 奈良女子大学大学院の沿革

2019年(令和元年)に創立百十周年を迎えた奈良女子大学の歩みは、大学院の拡充過程に重点を置いて示せば右記のとおりです。

奈良女子大学大学院の沿革

1908年(明治41年)3月31日	奈良女子高等師範学校設置
1909年(明治42年)5月1日	奈良女子高等師範学校授業開始
1949年(昭和24年)5月31日	奈良女子高等師範学校を包括し、奈良女子大学設置
1964年(昭和39年)4月1日	大学院家政学研究科(修士課程)設置
1965年(昭和40年)4月1日	大学院理学研究科(修士課程)設置
1968年(昭和43年)4月1日	大学院文学研究科(修士課程)設置
1980年(昭和55年)4月1日	大学院文学研究科(博士課程)設置
1981年(昭和56年)4月1日	大学院人間文化研究科(博士課程)2専攻(比較文化学専攻、生活環境学専攻)設置〔大学院文学研究科(博士課程)を包括〕
1995年(平成7年)4月1日	大学院理学研究科情報科学専攻設置
1998年(平成10年)4月1日	大学院人間文化研究科を区分制博士課程に改組 大学院修士課程の3研究科(文学研究科、理学研究科、家政学研究科)を大学院人間文化研究科博士前期課程として統合し、博士後期課程に複合領域科学専攻を増設
1999年(平成11年)4月1日	大学院人間文化研究科博士後期課程比較文化学専攻および生活環境学専攻を比較文化学専攻および人間環境科学専攻に改組
2003年(平成15年)4月1日	大学院人間文化研究科博士後期課程人間環境科学専攻および複合領域科学専攻を社会生活環境学専攻、共生自然科学専攻および複合領域科学専攻に改組
2004年(平成16年)4月1日	国立大学法人奈良女子大学設置
2007年(平成19年)4月1日	大学院人間文化研究科博士前期課程生活環境学専攻および人間環境学専攻を食物栄養学専攻、生活健康・衣環境学専攻、住環境学専攻および生活文化学専攻に改組
2009年(平成21年)5月1日	創立百周年
2014年(平成26年)4月1日	大学院人間文化研究科博士前期課程生活健康・衣環境学専攻を心身健康学専攻に改組
2016年(平成28年)4月1日	お茶の水女子大学との「生活工学共同専攻(大学院博士前期・後期課程)設置
2018年(平成30年)4月1日	大学院人間文化研究科博士前期課程人間行動科学専攻、心身健康学専攻、数学専攻、物理科学専攻、化学専攻、生物科学専攻および情報科学専攻をそれぞれ、人間科学専攻、心身健康学専攻、情報衣環境学専攻、数物科学専攻および化学生物環境学専攻に改組 国際社会文化学専攻を人文社会学専攻に名称変更
2020年(令和2年)4月1日	大学院人間文化研究科を大学院人間文化総合科学研究科に名称変更。併せて、博士後期課程比較文化学専攻、社会生活環境学専攻、共生自然科学専攻、複合現象科学専攻の4専攻を、人文科学専攻、生活環境科学専攻、自然科学専攻の3専攻に組織改編
2022年(令和4年)4月1日	国立大学法人奈良国立大学機構設置

2. 奈良女子大学大学院の基本理念と目的

奈良女子大学の基本理念

奈良女子大学は、大学をとりまく状況を次のように認識し、そのような状況にあって、本学が活動の指針とすべき理念を右記のように定めています。

奈良女子大学の基本理念

21世紀を迎え、情報化、国際化の急激な変化の中で、社会は複雑化・高度化し、人類は地球規模での共生・環境問題など多くの課題に直面し、これらの課題に対応し得る新しい価値観・思想、新しい科学・技術が強く求められている。経済や文化や教育など、さまざまな領域での国際的な交流が進む中で相互に協調関係を築き上げてゆくと同時に、各々が独自の競争力を持つことが必要とされている。特に天然資源の少ないわが国においては国際的に通用する人材、とりわけ今後ますます社会での活躍が期待されている優れた女性の人材育成が重要となる。

このような社会情勢を背景として、奈良女子大学は次の4つの理念を「奈良女子大学の基本理念」として掲げる。

- 1.男女共同参画社会をリードする人材の育成—女性の能力発現をはかり情報発信する大学へ
- 2.教養教育、基礎教育の充実と専門教育の高度化
- 3.高度な基礎研究と学際研究の追求
- 4.開かれた大学—国際交流の推進と地域・社会への貢献

奈良女子大学大学院の 基本理念

奈良女子大学大学院は、「大学院は、その知的活動によって社会の多様な要請や期待等に適切に応えながら、社会をリードしその発展を支えていく重要な役割を担っている。その使命は、新たな知を生みだし、社会・経済・文化を持続的に発展させ、また、国際的な貢献を果たすことである」という使命観の下、「奈良女子大学の基本理念」をふまえ、次の4つの基本理念を掲げています。

奈良女子大学大学院の基本理念

1. 研究教育の学際化

理念の第1として「研究教育の学際化」をあげる。21世紀において、社会が必要としているのは、細分化された個々の領域における専門的研究とそれらを統合・再編成した総合的な学問とのバランスのとれた発展であり、学術研究の著しい進展や社会・経済の変化に対応できる幅の広い視野と総合的な判断力を備えた人材の育成である。本学は、人・モノ・情報の交流が容易な小規模大学の特性を活かして、高度な基礎研究に裏付けされた、学際的、総合的な研究教育を行う。

2. 研究教育の高度化

理念の第2として「研究教育の高度化」をあげる。そのために複雑で高度化した諸学問を扱うにふさわしい研究教育体制を整える。大学院博士前期課程では専門性の獲得と学際的な視野の発達を図り、博士後期課程ではそれらの積極的な融合を行う。また同時に研究教育の重点を大学院へシフトさせ、他大学大学院との強力な研究教育連携・協力を進めることにより研究教育の高度化を図る。

3. 研究教育の個性化

理念の第3として「研究教育の個性化」をあげる。そのためには、本学の伝統ある「人間とその周辺環境や文化それ自体と、それらの間の関係」を取り扱う学問や生命・人間・生活・環境科学の強化によって、個性ある研究教育を推し進める。そのために小規模大学の利点を生かした文理融合体制の下、現在の人類、日本がかかえる諸問題に、奈良の地の地域的文化的特性を生かしつつ取り組む。そして、このことにより、21世紀の新しい人間文化の構築に貢献する。

4. 女性の人材育成と社会への貢献

理念の第4として「女性の人材育成と社会への貢献」をあげる。少子高齢社会や情報通信革命への対応、地球規模での環境問題の克服、新たなライフスタイルとそれを受けとめる生活環境の創造等の、地域社会、日本そして国際社会が直面している数多くの課題の解決に貢献するとともに、それらの課題に応える「広い視野を持つ、高度な専門能力を有する女性の人材」を育成する。また日本およびアジア諸国の女性の研究教育拠点およびライフサイクルの各段階に応じた生涯学習の拠点としての役割を遂行する。これらを通してさまざまな分野における女性のリーダーの育成につとめ、国際的な視野に立った女性の高等教育、および男女共同参画社会の推進に寄与する。

奈良女子大学大学院の目的

奈良女子大学大学院は、「学際性の推進」、「専門性の高度化」、「個性化の確立」、「国際感覚の涵養」を柱とし、豊かな人間性と高度な知性を備えた人材を養成することを目的とします。

奈良女子大学大学院の特徴

専門教育の高度化・学際化をさらに推進するとともに、女性のライフサイクルにも配慮した制度上の運用等によって、女性の高度専門職業人・研究者を養成しています。また、以下の事業が採択されています。

- ・「滋京奈地区を中心とした地域社会の発展を担う人材育成」事業
平成24年度採択
- ・日・EU間学際的先端教育プログラム
平成25年度採択
- ・滋京奈地域における産学連携インターンシップ等による人材育成
平成26年度採択
- ・大学の枠を越えた科学技術創造立国の中核となる理工系女性リーダー育成拠点の構築
平成26年度採択
- ・科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」
2019年度採択
- ・科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業
「奈良女子大学 博士号取得支援 SGCフェローシップ」2020年度採択
- ・次世代研究者挑戦的研究プログラム
「奈良女子大学 博士後期課程学生支援 SGC+プロジェクト」2021年度採択
- ・次世代研究者挑戦的研究プログラム
「奈良女子大学 次世代研究者育成プログラム SGC-NEXUS」2024年度採択

“したい意欲”を、“できるチカラ”に変えるために—

大学院・博士前期課程で、学ぶ。

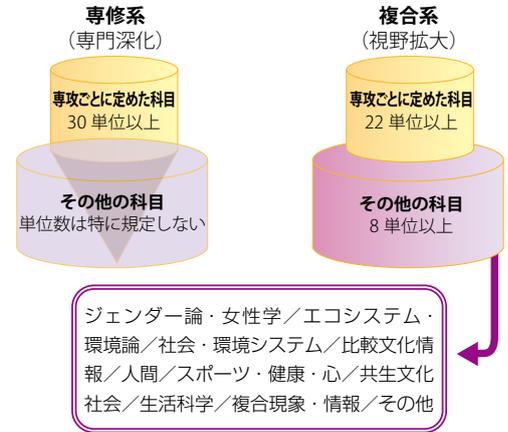
1. 人間文化総合科学研究科・博士前期課程の目的と特色

人間文化総合科学研究科・博士前期課程の目的

人間文化総合科学研究科・博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要の能力を備えた人材を養成することを目的とします。

人間文化総合科学研究科・博士前期課程の特色

大学院修了者に対する社会の多様な要求に対応するため、人間文化総合科学研究科・博士前期課程では、研究者養成だけでなく、高度な専門的知識を有する職業人の養成についても行っています。その社会的使命にふさわしい教育を展開するため、高度な専門的能力を有する専修系(専門深化)と幅広い視野を備えた多様なタイプの優秀な人材を養成する複合系(視野拡大)の2つの履修系列を設けています(生活工学共同専攻を除く)。なお、キャリア形成支援の観点から、キャリア科目(教職専門科目等)については、学部開設科目の履修単位に制限を設けておりません。



2. 人間文化総合科学研究科・博士前期課程の各専攻・コースの教育研究内容

学部	人間文化総合科学研究科	博士前期課程	博士後期課程		
文学部	人文社会学科	歴史学コース 人文社会学専攻 地理学コース 社会学コース	人文科学専攻		
	言語文化学科	日本語学 言語文化学専攻 言語文化学コース ヨーロッパ・アメリカ 言語文化学コース		比較文化学講座	
	人間科学科	人間科学専攻 教育学・人間学コース 心理学コース		社会人間学講座	
生活環境学部	食物栄養学科	食物栄養学専攻	生活環境科学専攻		
	心身健康学科	生活健康学コース 心身健康学専攻 スポーツ科学コース 臨床心理学コース		食物栄養学講座 心身健康学講座	
	情報衣環境学科	情報衣環境学専攻 衣環境学コース 生活情報通信科学コース		情報衣環境学講座	
	住環境学科	住環境学専攻		住環境学講座	
理学部	生活文化学科	生活文化学専攻	生活文化学講座		
	数物科学科	数学コース	数物科学専攻	自然科学専攻	
		物理学コース			数物科学講座
		数物連携コース			数物科学講座
	化学生物環境学科	化学コース	化学生物環境学専攻	化学生物環境学講座	
生物科学コース		環境科学コース			
	生活工学共同専攻	博士前期課程 博士後期課程			



開講授業科目 <http://koto.nara-wu.ac.jp/kym2003/syllabussearch.html>

専攻の概要

【博士前期課程】

人文社会学専攻

歴史学・地理学・社会学のいずれかを基盤として、幅広い視野から歴史・社会・文化・自然・地域などについて研究する専攻です。

教育理念

人文社会学専攻は、歴史学、地理学、社会学のいずれかを基盤として、学際的に諸問題を探求できる人材を育成することを目的としています。従来の枠組みにとらわれることなく、関連分野に対しても熱いまなごしを注ぐことができる意欲的な学生を望みます。

求める学生像

左記の教育理念にもとづき、次のような資質と能力を有する学生を求めます。

- ・専門分野に関する基礎的知識
- ・資料や文献を読み解くための語学力
- ・調査・分析、フィールドワークなどを行うための研究方法に関する経験・知識
- ・調査結果や文献などを適切に分析し、論理的に説明する能力
- ・大学での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
- ・社会生活に根ざした真摯な問題意識
- ・大学院における研究を広く社会に還元する意欲

本専攻は、歴史学コース、地理学コース、社会学コースの3コースで構成されています。歴史学・地理学・社会学が、従来の枠組にとらわれることなく有機的に連携して、社会科学や人文科学、さらに自然科学に及ぶ多彩な授業科目を用意しています。歴史、社会、文化、自然、地域などの諸分野を対象とした各専門領域を深めるとともに、学際的に諸問題を探求できる人材を育成します。

歴史学コース

歴史学コースは、日本史・東洋史・西洋史・考古学・美術史から構成されており、歴史を総合的に学ぶ場を提供しています。さまざまな言語で記された文献の読解・分析や、人間の諸活動の成果である遺跡や遺物、文化財などの見学・調査を通して学びを深めるとともに、対象とする時代や地域、方法の差異を越えて意見交換を行うことにより、広い視野から歴史上の諸問題について考えるコースです。

ここでは、日本・アジア・ヨーロッパを中心に、さまざまな地域のアイデンティティについて、また、いろいろな時代の政治や経済、外交、社会、思想、文化について、自分自身の問題関心を育みながら学ぶことができます。古代日本の都がおかれ、列島規模の交通の、さらには国際交流の一つの拠点であった奈良の地は、居ながらにして歴史を感じさせてくれるところです。そうした環境のなかで、みずからの興味・関心を学問上の問いへと深め、追究することにより、地域間格差や紛争、環境問題など現代の私たちが抱える問題に向き合う上でも広く求められる歴史的思考を培うことができます。



絵図の検討

地理学コース

文系・理系の知を融合する総合的な科学の構築をめざす地理学コースでは、人文地理学、自然地理学、地誌学に加え、社会・経済・文化、環境問題、自然災害などに関わる地域研究も視野に入れながら、人間活動と地域・環境との関係性を多面的に研究します。さらにこれらに関連する諸学問の理論について学ぶとともに、インタビューやアンケートを用いた調査方法、地域調査データや地理情報の高度な解析・分析手法を身につけることで、野外調査を含む地域調査を自ら企画・実践する能力を養うことができます。

このような専門的な知識・技術を活かして、たとえば、地域の自然・社会・経済、都市の成り立ち、まちづくり、生活文化、ツーリズム、ポピュラーカルチャー、ジェンダー、景観、環境問題、自然災害などのテーマについて、国内や海外をフィールドとして、グローバルな視点からミクロな視点まで、多様な空間スケールで研究を行います。地域に関わる多様な資料・情報・データの分析に必要な高度な技術・知識をしっかりと身につけ、人間活動と地域・環境との関係性を多面的に捉える鋭い観察力と的確な分析力を培うことができる点が、本コースの大きな特徴です。



鹿児島県・開聞岳周辺でフィールドワーク

社会学コース

私たちの生きる社会は、人々のつながり（関係）とそのつながりを基礎とした仕組み（制度・構造）と、それらを持続あるいは変化させる媒体（文化・コミュニケーション）から成り立っています。社会学コースでは、これら社会を構成する要素を基本的視点に置きつつ、現代社会で生じている諸現象を読み解くことを目的としています。具体的には、グローバル化、ジェンダーと家族、都市と地域、格差と不平等、コミュニティと社会ネットワーク、文化とメディア、多様性が進展する社会における共生などのさまざまなテーマ・領域を扱います。

コースでの学びを通して、人間の多様性やグローバル社会への視座も重視しながら、高度で専門的な社会学的思考力と分析技法を習得します。さらに、社会学的な探究と関わりの深い文化人類学や、ジェンダー論、観光論、メディア論なども学びつつ、現代社会において解明すべき課題を自ら設定し、その課題に積極的かつ独創的に取り組む能力を身につけます。



社会学のさまざまな文献

本専攻の院生は、以上のような多彩な内容をもつ3コースのいずれかに所属し、各コース・分野の専門領域について深く研究する一方、必要に応じて関連諸分野の他コースや他専攻の授業を受講することによって、独自の研究領域の開拓を目指すことができます。

本専攻を修了すれば、修士（文学、学術）の学位が与えられ、教員の専修免許（中学校社会、高等学校地歴、高等学校公民）や学芸員資格、専門社会調査士資格の取得が可能です。加えて、所属するコースや分野の専門的知識・技能を習得することによって、新しい職業キャリアへの道が開かれています。

また、本学大学院博士後期課程へ進学を希望する場合、人文科学専攻の比較文化学講座や社会人間学講座のいずれかへの進学も可能です。この点にも本専攻の他にない幅広さが表れているといえます。

本専攻を修了して、公務員・教員・研究職・一般企業などで活躍している諸先輩も多く、バラエティーに富んだ進路が開けています。

さらに研究を続けたい人は ⇒ 博士後期課程人文科学専攻比較文化学講座または社会人間学講座へ

言語文化学専攻

国語学・国文学・中国語学・中国文学・英語学・言語学・イギリス文学・アメリカ文学・ドイツ文学・フランス文学について、広い視野から深く学ぶコースです。

教育理念

言語文化学専攻には、日本・中国およびヨーロッパ・アメリカの言語や文学を専門とし、さまざまな方法で研究を行う教員が集っています。この多様性を活かして、例えば、日本近代文学を専門としつつ、フランス文学理論をあわせて学んだり、写本の一字一字を丹念に読む文献学的方法と、コンピュータによるテキスト分析の方法を共に身につけるなどといった、自分の研究テーマをしっかりともち、かつ幅広い視野に立った研究にチャレンジする学生を求めます。

求める学生像

左記の教育理念にもとづき、次のような資質と能力を有する学生を求めます。

- ・専門分野に関する基礎的知識
- ・資料や文献を読み解くための語学力
- ・調査結果や文献などを適切に分析し、論理的に説明する能力
- ・大学での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
- ・社会生活に根ざした真摯な問題意識
- ・大学院における研究を社会に還元する意欲

日本アジア言語文化学コース、ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コースの2コースから構成され、研究課題分野は国語学・国文学・中国語学・中国文学・英語学・言語学・イギリス文学・アメリカ文学・ドイツ文学・フランス文学などの諸分野にわたります。本学の博士後期課程に進学して博士(文学)の学位を取得し、研究者として自立する道が開かれています。また高等学校専修免許(国語・英語)のほか、各種資格が取得可能です。

日本アジア言語文化学コース

日本アジア言語文化学コースは、日本と中国の言語と文学作品を中心に、東アジアの言語文化を視野におさめながら、研究するコースです。

古代から現代にいたる日本語の歴史、万葉集などの上代文学、物語文学や説話集から和歌や連歌などの多彩な広がりをもつ中古～中世文学、出版文化の隆盛とともに展開していく近世の諸文芸、明治・大正・昭和と展開してきた近現代文学、そして、世界で最も長い伝統を誇る中国文学・中国語学。本コースはこれらの諸領域を研究する教員によって構成されています。

それぞれの専門の研究指導のもと、時代・社会・文化的背景に即して深く探究すると同時に、固定観念を捨てた斬新な視点で、あるいは領域横断的に、言語と文学への考察を進めていくことが望まれています。演習・講義および研究指導は、すぐれた専門性と各領域相互の密接な連携によって行われており、教育・研究環境は多彩かつ充実しています。資料や文献を丹念に読解するとともに、確かな分析と論理にもとづいて探究する、独創的な研究を目指します。



毎年2月に行われる卒業論文・修士論文発表会での大学院生の発表及び質疑応答場面

ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コース

ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コースは、次の五分野が、国境を超えて相互交流し、より広い視野からの研究を進めています。

- ・英語学・言語学：現代英語の音声、語、文、談話などの構造や意味を中心に研究します。コンピュータ・コーパスを利用した研究や、日英比較をはじめ複数言語にわたる対照言語学的研究も可能です。特に、関連性理論や談話研究を含む意味論・語用論の分野の授業が充実しています。
- ・イギリス言語文化学：シェイクスピアの時代から現代に至る詩・戯曲・小説等の代表的作品を、それらの背景となる歴史・文化を視野に入れつつ、同時に現代の批評意識をも反映させた斬新な研究を目指します。
- ・アメリカ言語文化学：清教徒的倫理性と奔放な想像力、前衛と移民文化継承、それら多様な魅力を併せもつ文学の、伝統的分析批評と共に、本国のアメリカン・スタディーズを視野に入れた学際的研究をも目指します。
- ・ドイツ言語文化学：ドイツ、スイス、オーストリアに広がるドイツ語文化圏の作家、詩人の作品と人間について、欧州の文化史的背景を視野に入れながら、超越の世界への独特の関心に貫かれた言語・芸術の諸相を研究していきます。
- ・フランス言語文化学：美しいフランス語の精華を究めつつ、人間にたいする興味に貫かれた詩・小説・演劇を、他の芸術(映画、美術、音楽)や学問(記号学、文化人類学、精神分析学)も視野に入れて研究します。



人間科学専攻

哲学、教育学、心理学、身体文化学、音楽などを基盤に、人間存在とその営みのさまざまな側面について幅広く学ぶコースです。

教育理念

人間科学専攻は、哲学・思想、教育学、心理学、音楽教育学、身体文化学等の研究を通して、人間と人間の行動について広い視野から深く学ぶことを目的としています。教育学・人間学コースでは、人間形成と人間存在に関わる幅広い事象について、高度な専門教育と研究を行います。心理学コースでは、人間の心と行動そして人間関係について、理論と実践の両方を視野に入れて高度な専門教育と研究を行います。

求める学生像

- 左記の教育理念にもとづき、次のような資質と能力を有する学生を求めます。
- ・ 専門分野に関する基礎的知識
 - ・ 資料や文献を読み解くための語学力
 - ・ 資料の分析、実験や観察、フィールド調査などの研究方法に関する知識と能力
 - ・ 調査結果や文献などを適切に分析し、論理的に説明する能力
 - ・ 大学での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
 - ・ 社会生活に根ざした真摯な問題意識
 - ・ 大学院における研究を社会に還元する意欲

人間科学専攻は、以下の2つのコースからなり、人間を理解し、人間の諸行動そして文化を探究するという共通の課題を有しています。コース間の連携を保つことによって、より高度な教育と研究を行うことができます。

また本専攻においては、幼稚園・小学校教諭の専修免許状を取得することができます。

修了後は、専修免許状を持った教員、自治体の生涯学習担当、教育や福祉領域や医療における心理職などの専門職として活躍できます。また、大学院における学修・研究を活かして、多様な職種一般企業や公的機関にも就職しています。博士後期課程に進学し、博士の学位を取得する道も開かれています。

教育学・人間学コース

教育学・人間学コースは、人間形成と人間存在に関わる幅広い事象—教育の思想と実践、哲学・倫理学上の思想的諸問題、身体にかかわる文化、芸術、メディア、音楽や音楽教育、音楽文化等—を教育・研究の対象とします。

「教育学分野」では、人間の成長・発達及び教育の構造について原理的・歴史的・実証的に解明を試みます。

「哲学・思想分野」では、人間をその存在そのものにおいて根本的・原理的に究明し、社会の倫理的基盤について考察します。

「音楽教育学分野」では、音楽と人間のかかわりを根源的に問うために、歴史・社会・文化を含めた複眼的な視点からアプローチしていきます。

「身体文化学分野」では、身体という切り口から文化の多様な側面について歴史的・社会的な理解を試みます。

本コースでは、文献資料による理論的研究、実証的研究、観察・インタビュー・アンケート等の調査による実証的研究など、多様な研究方法を批判的に吟味しつつ活用します。

現代社会における様々な人間の営みについて生き生きとした関心を持ち、その問題点を原理的に探究するとともに創造的に克服していく、高度な専門的能力を身につけた学生を育てます。



演習でのグループディスカッション

心理学コース

心理学コースでは、エビデンスに基づいて「心」を科学的に研究し、人間とは何かという根源的な問いを探究します。知覚・認知などの基礎心理学、教育と発達の心理学、対人関係や社会心理学などの多角的な見地から学び、研究します。一人ひとりの人間の心のはたらきや、そのあらわれとしての行動だけでなく、人と人との関わりの中で生まれる相互作用、幼稚園・学校や社会の中での人々の営みなど、様々な対象について、心理学の手法を用いて描き出し、分析し、考察します。実験や質問紙調査などを用いる量的研究、フィールド観察や面接などを用いる質的研究のどちらであっても、現象を深く鋭く追求して学問の発展に資するとともに、研究を通して社会に貢献することを目指す学生を育てます。

また、本コースでは、公認心理師(国家資格)の資格試験の受験要件を満たす教育課程も備えています。公認心理師資格試験の受験要件を満たすためには、同資格に対応する学部教育課程で単位を取得して卒業し、大学院にて同資格に対応する講義及び演習9科目と450時間以上の実習の単位を取得して、博士前期課程を修了する必要があります。

人間をより深く理解するためには、様々な知識や研究手法が必要です。同時に、心理学によって何をを目指すのか、研究を通して人間の幸福に貢献するとはいかなることなのかなど、研究営為の社会的意義を常に問う姿勢が求められます。様々な現象に不思議さを感じ取る好奇心と、その追究に意味を見いだせる、研究意欲をもった学生を期待しています。



心理教育相談室での活動風景



小学生の活動の観察調査風景

さらに研究を続けたい人は ⇒ 博士後期課程人文科学専攻社会人間学講座へ

食物栄養学専攻

病気を予防し、健康を維持・増進する食生活を実現するために、食物の栄養、機能、安全性をはじめとする、現代の食に関わる多様な問題を研究・教育することを目的とします。

教育理念

本専攻は、病気を予防し、健康を維持・増進する食生活を実現するために、現代の食に関わる多様な問題について研究・教育することを目的とします。したがって、広い視野に立ちこの分野に対する意欲的な研究マインドを持つ学生を望みます。

求める学生像

- ・一定の科学的知識を備えている
- ・食物栄養学において将来の科学的展望を切り開いていこうとする意欲がある
- ・科学論文を理解する語学力と読解力がある

本専攻は、健全で快適な食生活の創造を目的として、医学、農学、薬学、工学などの専門領域の情報を集約し、食物の栄養性・機能性・安全性・嗜好性・調理加工性などに加えて、疫学的臨床研究など、分子レベルから生体、さらには集団としての人の研究まで、広い範囲にわたって研究・教育を行います。

本専攻では、食物・生命・健康・環境等について高度で幅広い知識と研究能力を持った人材、例えば新規食品や食品加工法の開発研究者、食品分析の専門技術者、製薬、保健・健康関連企業等の研究開発スタッフ、地域社会における食生活・健康の指導者（行政）、食物栄養学関係の大学・短大教員などの人材の育成を目指しています。また、中学・高校家庭科教師の専修免許、管理栄養士の資格のある人は栄養教諭の専修免許が取得できます。生活関連企業の研究開発員、官公庁の生活関連の職員などが期待されます。



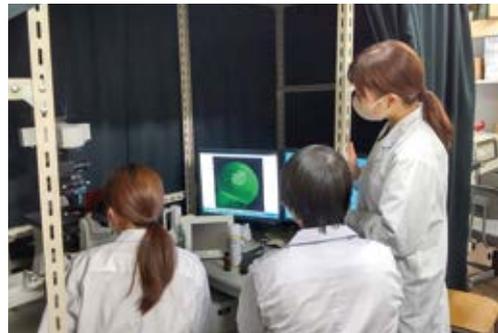
実験準備の様子



実験試料調製の様子



細胞培養作業の様子



細胞観察の様子



測定・データ解析の様子



ディスカッションの様子

さらに研究を続けたい人は ⇒ 博士後期課程生活環境科学専攻食物栄養学講座へ

心身健康学専攻

健康な人間生活のあり方を、こころと身体健康という視点から研究・教育することを目的とします。

教育理念

心身健康学専攻は、心と身体健康と人間を取り巻く環境との相互作用について学び、高度な科学研究の成果を応用して健康で安全な生活を実現するための知識と技能を身につけた人材の育成を目的としています。これらの知識や技能を身につけるために、3つのコース（生活健康学コース、スポーツ科学コース、臨床心理学コース）を設け、それぞれの視点からより深く研究教育を行います。高い専門性を保ちながら、幅広い視点で健康や生活のあり方について考え、よりよい生き方や環境のあり方を提案することにより社会に貢献できる人材を育成することを教育理念としています。

求める学生像

- 心身健康学専攻は次のような資質および意欲をもつ学生を求めます。
- 身近な生活環境、社会環境、生活習慣と心身の健康との関連を深く探究しようとする学生。
- 個々の学問領域の基礎となる専門知識を有し、新たな認識・知識の獲得に意欲的な学生。
- 心と身体健康に関する知識を総合的に学び、高度な専門知識を再構築する意欲ある学生。
- 幅広い事業分野で専門職業人として、女性リーダーとして社会貢献を目指す学生。
- さまざまな分野で国際社会に貢献することを目指す学生。

本専攻は、生活健康学コース、スポーツ科学コース及び臨床心理学コースの3つのコースから成り立っています。これら3コースはそれぞれ次のような特徴を持っています。

生活健康学コース

生活の中における複雑な健康問題を研究するためには、衣・食・住に加えて、運動や栄養、ストレスなどとの関連から健康について統合的に考える思考力が必要とされます。したがって、本コースでは、生活環境、生活習慣と健康との関わりについて総合的な視野に立って、研究・教育し、健康について高度で幅広い知識と判断力をもつ人材の養成を目指しています。生理学、神経科学、生化学、認知科学、神経内分泌学、人間工学などの専門領域の情報を集約し、分子レベルから生体までの広い範囲にわたって研究・教育を行います。健康についての幅広い知識を深めながら、専門領域における創造性のある研究資質を育てています。

本コース修了生の進路としては、健康・生活関連企業や製薬・医療関連企業などで研究開発に従事する研究員、大学・短大教員、官公庁の健康・生活関連の専門職員などがあり、各分野で専門職としての活躍が期待できます。また、専修免許を持つ中学・高校家庭科教師などへの道も開かれています。



スポーツ科学コース

現代社会では、からだやスポーツの象徴性という視点を通して人間や社会のありようを考える必要性が高まっています。本コースでは身体運動やスポーツをとりまく諸現象を、人文・社会・自然科学からのアプローチにより解明し、社会に貢献します。

遊びやスポーツの歴史、現代スポーツが抱える諸問題、スポーツにまつわる法や政策、社会環境と生涯スポーツ、運動・スポーツの実施が心身にもたらす効用、身体運動の習熟過程とそれに伴う心理的変容などをキーワードに、文献、調査、実験などを駆使して研究し、専門性を高めていきます。

研究の方向性をより確かなものにするために、大学での学びに加え、幅広い年齢層を対象とした地域連携事業や地域スポーツイベントへの参画によって様々な他者や最新の事例に出会う機会を留意しています。自らの研究課題に真摯に向き合う、データを収集し分析する、的確に説明する、対象にフィードバックを行うなどのプロセスを通して、新しい知見を世に問う積極性や実践応用力を身につけていくことができます。

教育や福祉、スポーツ産業をはじめ、ウェルネス志向の高まる社会の様々な領域に、この専門性を活かせる場が広がっています。



臨床心理学コース

現代社会では、うつ、不安、発達障害、不登校、非行などさまざまなこころの問題があります。本コースでは、このようなこころの問題に関することについて研究します。心理学の立場から、科学的にこころの問題を捉える方法である心理検査をはじめとした心理アセスメント法を学ぶとともに、それら問題を抱えている人たちの回復を援助するためのカウンセリング・心理療法について、知識を学ぶだけでなく、個別スーパービジョンやケースカンファレンスを受けつつ、学内の臨床心理相談センターや学外の協力施設での実習を受けることで、身につけていきます。将来、臨床心理学の専門家として活躍できる人材を育てます。

大学で必要な単位を取得したうえで、大学院の本コースで必要な単位を取得することで、公認心理師試験の受験資格を得ることができます。

また、本コースは臨床心理士指定大学院(第1種)ですので、本コースを修了することで臨床心理士の受験資格が得られます。



さらに研究を続けたい人は ⇒ 博士後期課程生活環境科学専攻心身健康学講座へ

情報衣環境学専攻

情報衣環境学専攻では、情報技術や衣環境の専門分野の高度な知識を活かした衣環境のフロンティアと、ライフコンピューティングを創出するシステム開発の教育研究を行います。これにより、生活環境を質的に向上させる基礎研究、生活者を見守り支える仕組みを創出するハードウェアならびにソフトウェアの社会還元を目指しています。

教育理念

情報衣環境学専攻は次の3点を基本理念の柱とします。衣の観点から快適・健康・安全で質の高い生活環境を創り出すために必要な新しい技術開発や諸問題の研究に取り組める指導の人材を育成すること。そして、現代社会のICT環境を構成しつつあるライフ・コンピューティングの観点から生活環境を改善する技術を開発し社会に発信できる人材を育成すること。さらに双方の融合した先端学際領域で活躍できる人材を育成すること。これらの理念を実現するために、衣環境学コースおよび生活情報通信科学コースにおいて、多岐多様な分野に関する最先端の研究教育を行っています。

ライフコンピューティングとは本専攻が提案・推進する新しい概念であり、ビックデータ解析に人工知能技術を組み合わせ、生活者を見守り支える仕組みの全般を意味します。衣服では人が活動しつつ生体情報を得るような健康管理分野が注目を浴び、衣服の拡張としてのウェアラブル情報端末による生活ナビゲーションなどの付加技術が注目を浴び、高齢化社会を支え、地域格差を解消する超スマート社会の実現が期待されています。このような社会的な要請に応えられる革新的な生活環境を実現できる人材を養成することを目指して活動しています。

求める学生像

本専攻は衣環境学と生活情報通信科学を軸とする生活環境科学の多様な教育研究を行っています。従来の科目区分の枠に収まらない学際的な研究分野に興味を持ち、安全で快適な衣環境設計やライフ・コンピューティングの展開に積極的に関わる意欲のある学生を歓迎します。専門分野の研究を十分に行うために英語の能力も必要です。以上の点に関して十分な知識を習得していることを期待します。

衣環境学コース

健康で快適かつ安全な生活のあり方を、物質科学、環境科学、分析化学の原理や技術をもとに、衣環境学に関連する情報処理やデータ解析など衣環境学の先端技術について研究し、創造性豊かな研究能力や人々の生活や社会のための衣服を創造、企画設計できる能力を習得するための研究教育を行っています。

生活情報通信科学コース

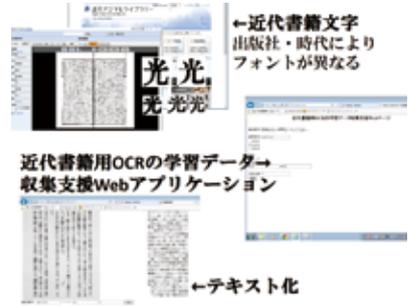
ICTを駆使して生活の質を向上させる技術であるライフコンピューティングを推進するための教育研究を、コンピュータシステム、ソフトウェア工学、アプリケーション、人工知能、情報基礎等の網羅的な科目群で学ばせ、創造性豊かな研究能力や、生活者のためのサイバー社会を創造、企画設計できる能力を習得するための研究教育を行っています。



脳波測定の様子



(研究成果) 経路探索ロボット



(研究成果) 近代デジタルライブラリ



ゼミ風景



放射光研究施設での実験風景

さらに研究を続けたい人は ⇒ 博士後期課程生活環境科学専攻情報衣環境学講座へ

住環境学専攻

安全・安心で、快適に生活することができる美しい住環境をデザインするために、住居内外での生活と住環境との関連を、生活者の視点から研究・教育することを目的とします。

教育理念

人間の日常生活環境から地球環境に関わる諸問題を、生活の視点から総合的に捉えて、問題を解決する能力を養います。そして、社会が求めている安全で安心できる住まい、かつ快適で魅力的な住環境という要請に応じて、計画・設計を創造提案し、それらを維持・管理できる高度な専門的知識を備えた人材を育成することを教育理念としています。

求める学生像

- 次のような資質や能力がある学生を求めます。
- ・専門分野に関する基礎知識のある人
- ・住居の内外での生活や住環境のあり方を考える問題意識のある人
- ・さまざまな生活を容れる居住空間や住環境を計画・デザインすることへの強い関心のある人
- ・専門領域において課題・問題を見出し解決する能力のある人
- ・調査・分析、実験、フィールドワークなどを行う研究方法に関する経験や知識のある人
- ・大学院における研究を広く社会に還元する意欲のある人

本専攻では、住宅・生活共同施設・道路・公園緑地などから構成される住環境の空間特性・サービス特性を人間生活に関連づけて研究・教育します。また、その構築・運営・維持管理に関わる構築方法・財政・法的規制などとの関連事項についても研究・教育します。

社会科学的方法を援用する住居論、住居集合論、地域空間政策論、歴史学的方法と比較文化学的方法を駆使する住環境史論、生活空間計画論、自然科学的方法と心理学的方法を複合させる建築環境論、住環境管理論、物理学的方法により解析する住居構造防災論、多様な方法を複合的に活用する住環境デザイン論、景観デザイン論などの研究・教育を通じて、住環境の構築と管理運営に関する高度で幅の広い知識と技量を有する専門職、研究職の育成を目指します。

本専攻の修了生の社会への進路としては、建築学・住環境学関連の研究教育分野に加えて、一級および二級建築士、ランドスケープアーキテクト、住宅産業および建築企業の企画・設計スタッフ、インテリアプランナー、建築設計・都市計画コンサルタント、建築・都市計画行政職員、家電設備関連企業等の研究開発員などでの活躍が期待されます。



内モンゴル自治区・ゲルの調査



寺院建築の耐震調査



修士設計作品



夏季の床冷房の人体影響に関する実験



設計者からの建築デザインレクチャー



都市公園竣工現場の視察



伝統的町屋を活用したプレゼンテーション



住環境設計の草案講評会



文化財の改修現場の見学

さらに研究を続けたい人は ⇒ 博士後期課程生活環境科学専攻住環境学講座へ

生活文化学専攻

私たちの日常生活にあるミクロな問題が、世界のマクロな問題とつながっていることを、文化、歴史、法律、経済、環境、心理、ジェンダーなどのさまざまな視点から研究します。

教育理念

男女共同参画、環境保護、高齢化、少子化など、現代の生活に関わる課題は極めて多様です。本専攻では社会科学と人文科学にまたがる教育カリキュラムを用意し、身近なところから問題を掘り起こす課題発見能力、諸問題の複雑な相互連関まで含めて明らかにする論理的分析力、研究を現実社会への提言に結びつけることのできる応用力をあわせ持った、真に社会に貢献できる人材の育成に努めます。

求める学生像

- ・家庭生活を中心とする人間的スケールから生活環境のあり方を考えるということに、強い興味と関心を持つ学生を求めています。
- ・社会科学、人文科学の分析視角を創造的に融合させることによって、身近な「世界」の中に、新たな認識・知識を発見していくことに対して意欲的な学生を、文系・理系を問わず歓迎します。

生活文化学専攻の特色は、それぞれ独自の専門分野をもつ教員からなる専攻だということです。個々の教員は、それぞれユニークな研究テーマをさまざまな方法や理論を用いて研究しており、その多様性がこの専攻の特徴と言えます。そこで、本専攻ではこの独自性をうまく生かすために、複数の教員が指導する体制をとっており、通常一人の学生に主任指導教員1人と、副指導教員があたることになっています。各教員が、どのような研究テーマをどのような理論や方法を用いているかを知るために、それぞれの教員の書いた論文や著書を直接読むことをお勧めします。

人文社会系の学問は、唯一の正解を求めるものではなく、新しいものの見方や批判的視点を提示し、研究者のオリジナリティーを出すことに意義があります。新進の研究者が、生活文化学専攻で斬新な研究を行い、新たな研究分野を切り開くと同時に、社会を変える力になることを期待します。



NHKの取材をうける大学院生



女性農業者に聞き取り調査をする大学院生



北海道調査で石臼体験



修論発表会



アートイベント

修士生の進路について

修士生の進路としては、国家・地方公務員などの行政領域(一般行政職、教員、家裁調査官等)、地域団体での女性リーダー、各種企業の企画・消費者・福祉部門、シンクタンクなどへの進出が期待されます。後期課程に進学して大学・短大・研究所などの教員や研究者を目指す人も多数います。

さらに研究を続けたい人は ⇒ 博士後期課程生活環境科学専攻生活文化学講座へ

数物科学専攻

数学と物理学が連携して教育・研究を行い、さまざまな自然現象や社会現象の中に潜む原理や現象の間に共通な普遍的法則を見出すことで、数学的、物理学的思考方法や知識を習得する専攻です。

教育理念

数物科学専攻は、社会のグローバル化、価値観の多様化、予測不能な自然・社会現象に対応できる広い視野と多様な価値観を持ち、高い水準の数学と物理学の専門知識を備えるとともに、その知識を社会の中で自らが置かれた立場に応じて継承し発展させることができる人材を育成することを目的としています。

この目的に沿って、数物科学専攻には、数学コース、物理学コースおよび数物連携コースの三つのコースを設けています。数学コースでは自然科学の知識と応用を背景に、高度な数学的思考力を涵養し、諸現象の中に潜む数学的構造を究明し、合理的に問題を解決できる人材を、物理学コースでは、宇宙から極微の世界にわたる様々な自然現象を理解するための知識と物理的思考法に加え、最先端の研究に関わる計算・計測技術を活用し、現代の高度化した科学技術の幅広い分野で活躍できる人材を、数物連携コースでは、高度な数学、物理学、情報科学の連携教育を行なうことで、幅広い問題解決力を有した人材を育成することを目指します。

求める学生像

左記の教育理念に基づき、下記のような素養・意欲を持つ学生を求めます。

- ・数学や物理学に興味を抱き、その内容を深く学びたいと希望する学生
- ・数学や物理学の学習を通じて得られた知識、技術や方法論を用いて、将来社会において広く活躍する意欲のある学生
- ・さまざまな自然現象や社会現象の中に隠れている原理について強い好奇心を持ち、それに対して理論的あるいは実験的につきつめて明らかにしようとする探究心を持つ学生

数物科学専攻を希望する学生は、学部で履修する数学や物理学の基礎をしっかりと身につけている必要があります。それとともに、自然科学全般の基礎的素養とグローバルに活躍するために必須な語学力が必要です。

数学コース

種々の対象には豊かな数学的構造が存在します。数学的構造とは、自然数などの整数構造、演算などの代数構造、対象の図形的把握に不可欠な位相構造・幾何構造・複素構造などをいいます。それらが相互にどのように関連しているかを研究し、それによって対象の構造の全体を把握することを一つの目的としています。最近では、各構造についての研究の深化だけでなく、構造の間の大きな統合がなされつつあります。従来の枠にとらわれない有機的な統合の上に新しい知識を得ることを目指しています。

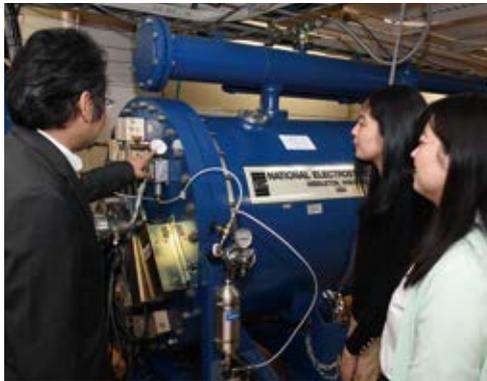
また、種々の現象に内在する動的なものに注視し、微分積分学を基にして、その動きを研究することも目的としています。現象に対する理解を深めるため、現象の新たなモデル化を行い、俯瞰的な見地から種々の現象を認識することに努めています。このような総合的な研究を可能にするため、従来の偏微分方程式論、確率論、フーリエ解析の研究に加え、非線形現象・大域現象の解析などの新たな方向性も取り込み、現象解析の一層の深化を図り、豊かな発展を目指しています。



数学コースでのゼミ風景

物理学コース

物理学の対象は、宇宙から原子核や素粒子のように目に見えないミクロな世界までの広い範囲にわたります。物質の基本的・究極的なミクロ構造の解明とそこに働く相互作用や法則とその体系化、中間に属するメソスコピック系やナノ系の物理現象、マクロな系である物質の諸性質に関する教育研究を行っています。いずれも、理論・実験の両分野が協力して、自然の不思議に対する好奇心と、その解明を目指す強い探究心を育み、関連する技能の修得を合わせて、個性ある優れた研究の創出と、高度専門女性職業人の輩出を目指しています。



ベトロロン（放射線研究室の実験装置）の使用方法の説明を受けている院生



並列計算機を使用した研究の様子

数物連携コース

数学と物理学は、それ自身に内在した学問的興味に従って進化してきましたが、歴史的には互いに緊密に結びついて発展してきました。例えば、17世紀、デカルトの解析幾何学とガリレオによる運動の記述、さらにそれらの延長線上にあるニュートンとライプニッツによる微分積分学の発見およびニュートンによる古典力学の建設などです。このように、数学と物理学は互いにつながりつつ、それぞれ新たな分野を生み出し拡大してきました。本コースでは、このような両学問の関係を意識し教育研究を進めています。



数物連携コースにおける授業風景



数物連携コースにおける授業風景

さらに研究を続けたい人は ⇒ 博士後期課程自然科学専攻数物科学講座へ

化学生物環境学専攻

化学生物環境学専攻では、化学コース、生物科学コース、環境科学コースが連携し、専門的な教育と研究の実践を通して、自然科学に関する専門的知識や技能とともに幅広い視点や高いコミュニケーション能力を身につけ、自然科学関連の幅広い分野で研究者や高度専門職業人としてグローバルな活躍ができる人材の育成を目指しています。

教育理念

化学生物環境学専攻では、化学、生物、環境科学の学問領域が連携した研究・教育活動を推進し、物質や生物およびそれらを取り巻く自然環境を総合的にとらえることができる広い視野と正しい倫理観、正確な知識、論理的思考能力をもち、自発的かつ協動的に問題の発掘と解決に取り組むことのできる理系女性人材の育成を目指します。

求める学生像

化学生物環境学専攻では、自然科学全般に興味を持ち、所属するコースで高度に専門的で実践的な研究教育を通して専門知識を修得し、自ら問題点を発掘して思考し解決する能力を身につけ、将来は社会において広く活躍する意欲のある学生の入学を求めます。そのためには、大学の学部において数学や自然科学、あるいは工学や農学など理系の基礎および専門知識を修得していること、実験や実習、演習、卒業研究やセミナーなどを通して問題発掘とその解決に向けた取り組みについて経験を積んでいることが必要です。最先端の科学を研究する上で英語は必要不可欠ですので、英語について十分な能力を備えていることを望みます。また、論理的な日本語で表現するためのコミュニケーション能力も必要です。

化学コース

21世紀の化学の先端分野では専門化および高度化が著しく、並大抵なことではキャッチアップできません。このような状況にあって、大学院修士レベルで自らの周囲の専門化された狭い範囲に限定された知識を持つだけでは、実社会に出てから科学技術のいろいろな分野での自らの発展には十分とはいえません。そこで化学コースでは、現代化学の専門性・高度性を念頭に置き、化学各分野を網羅したカリキュラムを設定し、大学院生の興味を喚起しつつ十分に理解可能なロジックを駆使することによって、高度な現代化学を平明に説き起こすことによって大学院生自身のものとなる基盤的な知識や思考力を培うことを目指しています。さらに、並行して化学コース各専門分野での先端的な学術研究に能動的に日常的に参画し、その経験を通じて「仕事」の能力・適応力を育み、また化学および関連科学技術分野で将来専門的な研究開発等の職業活動が可能になるような専門的なスキルを養い柔軟な応用力を育成します。これら知識基盤の確立と研究活動への参画の両方によって、各分野に応用可能な力を総合的に伸長させます。

化学コースには、「物理化学分野」「有機化学分野」「無機化学分野」の3つの教育研究分野があります。

物理化学分野

分子や分子集合体・構造を電子・原子・分子の視点から解明しようとしています。

有機化学分野

持続可能な社会の構築を目指して、新しい有機分子の合成やその物性の解明、および、新しい有機合成反応の開発を行っています。

無機化学分野

私たちの未来に関する諸問題に金属錯体をキーマテリアルとして挑戦しています。



生物科学コース

生物科学は、近年もお劇的に発展を遂げつつある学問分野のひとつです。また、バイオテクノロジーの利用や生命倫理など生物科学に深く関連する問題について市民社会が判断を迫られる場面も近年ますます増えてきています。生物科学コースでは、さまざまな生物が織りなす生命現象の共通性と多様性を、分子から生態系に至る多層的なレベルで捉える研究の実践と専門教育を通じて、科学的知識や論理的思考法を身につけ、社会で能動的に活躍できる人材を育成することを目指しています。

生物科学コースで学び、研究するためには、生物科学に関する基本的な知識はもちろん、一定の英文読解能力やコミュニケーション能力をもっていることが必要です。そして何よりも、生き物の様々な姿やはたらき、生命の謎を明らかにしたいという強い欲求と情熱をもっていることが重要です。

生物科学コースは、分子細胞生物学分野、個体機能生物学分野、生態学分野の三つの教育研究分野から構成されており、各分野にはそれぞれ複数の教員が所属しています。

分子細胞生物学分野

生体膜の構造と機能、菌類の染色体構造、原生生物の細胞間相互作用、藻類における形態形成運動や多細胞化のしくみなどを題材に、生命現象を分子・細胞レベルで解析する研究・教育を行います。

個体機能生物学分野

動物の光受容・神経発生・行動生理、ノックアウトマウスを用いた遺伝子機能解析、高等植物の環境応答や組織・器官形成などを題材に、植物や動物など多細胞生物の、個体レベルでの構造や機能に注目した研究・教育を行います。

生態学分野

水生生物の生態と行動、生物多様性の維持機構や保全、顕花植物の繁殖生態とその進化、などを題材に、生態系レベルでの生命現象に注目した研究・教育を行います。

以上のようにそれぞれは個性的な研究を実践している教員間、研究分野間、さらにはコース間での連携と相互補完によって、生物科学コースにおける教育と研究は、全体として個性豊かで高度な専門性と普遍性・学際性の両立を実現しています。



ウミウシ

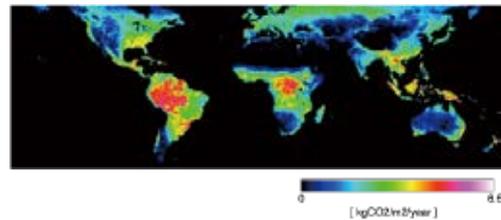
環境科学コース

現在の地球環境は、文明の発達に伴う人類の過度な活動によって、様々な問題に直面しています。それらの問題を理解し、解決するためには高度な専門知識だけでなく、俯瞰的に物事を分析できる幅広い教養が求められます。環境科学コースは、化学生物環境学専攻の3つのコースの一つとして高度な専門教育を行うとともに、分野横断的な学際的研究を推進します。

コースには「地球環境科学分野」「数理生命システム分野」「生物環境学分野」「環境化学分野」の4つの研究分野があります。

地球環境科学分野

衛星からリモートセンシングで観測される地球観測データを分析することによって、地球環境の諸変動の過程を解明します。



衛星データによる純一次生産量の推定結果

数理生命システム分野

マイクロ系からマクロ系に至る環境と生命現象に関する数理的研究を行います。



数理生命システム分野概念図

生物環境学分野

生物と環境との相互作用について深く研究し、地球温暖化・化学汚染・保全といった環境問題に対して生物学的観点から取り組みます。



高山植物のお花畑

環境化学分野

幅広い化学の基礎の上に、最先端の手法を用いて、環境を形作る化学物質の存在状態や性質・環境への影響などを明らかにします。



環境化学分野イメージ図

さらに研究を続けたい人は ⇒ 博士後期課程自然科学専攻化学生物環境学講座へ

生活工学共同専攻 (博士前期課程、博士後期課程)

生活工学共同専攻は奈良女子大学とお茶の水女子大学が共同して大学院博士前期課程・後期課程の教育研究を行う専攻です。このため、生活工学共同専攻の学生はお茶の水女子大学の施設（図書館等）をその大学の学生と同様に使用することができます。

博士前期課程

教育理念

本専攻では、安全・安心で豊かな未来の社会・生活を創造すべく、人間生活における諸課題を柔軟に捉え、生活に根ざした生活者の視点を工学手法に融合させることで研究を展開できる能力を有する女性人材の育成を目的とします。そのために、生活に関連する諸課題を生活者の視点に立ち、工学諸分野の基礎から応用までを幅広く学ぶことで、新たな分野である生活工学を創出することを旨とした教育研究を展開します。

求める学生像

- ・人間と生活環境に関わる現実的諸課題に強い関心を有する人
- ・生活工学的視点をもって課題解決に取り組む意欲・能力を有する人
- ・研究成果の提案・還元を通じて社会貢献する高い志を有する人

■ 想定される進路

想定される進路としては、前期課程では、生活関連の理工系企業の製品開発者、公務員、教員など、後期課程では、研究機関や企業の中核的研究者・グローバルリーダー、大学教員などです。

博士後期課程

教育理念

本専攻では、安全・安心で豊かな未来の社会・生活を創造すべく、人間生活における諸課題を柔軟に捉え、生活に根ざした生活者の視点を工学手法に融合させることで研究を展開できる能力を有する女性人材の育成を目的とします。とくに、自立的に研究を展開でき、かつ、指導的役割を担い得る人材育成を目指します。

そのために、生活に関連する諸課題を生活者の視点に立ち、工学諸分野の基礎から応用までを幅広く学ぶことで、新たな分野である生活工学を創出し、高度な学術的発展を目指した教育研究を展開します。

求める学生像

- ・人間と生活環境に関わる現実的諸課題に強い関心を有し、生活工学的観点をもって解決に取り組む意欲・能力を有する人
- ・研究に求められる基礎能力と強い意欲をもって研究者・高度技術者を目指す人
- ・社会人としての基盤を保ちつつ、より高度な専門能力の開発を目指す人
- ・上記に必要な修士相当の学力、ならびに、理工学系諸科目の学力を有する人
- ・研究成果の学術的発展を通じて社会貢献する高い志を有する人

生活工学共同専攻のカリキュラムの特徴

分野を超えたコラボレーションによって、総合的に解決の方策を見いだす研究者・技術者の育成を目指し、本専攻のカリキュラムは、基礎科目群、専門科目群、専門応用科目群で構成されます。基礎科目群では、生活工学の基盤となる理工系での基礎を修得しつつ、倫理・知財について学びます。専門科目群は各教員の専門分野に関連する科目群です。専門応用科目群は、諸分野のコラボレーション科目で、生活関連課題の工学的解決のための手法を修得します。これらの学修を踏まえ、教員指導のもと修士、博士論文を作成します。

共同専攻の特徴

- ・奈良女子大学から主指導教員と副指導教員（1名以上）、お茶の水女子大学から副指導教員（1名以上）が選ばれます。主指導教員と副指導教員が協力して研究・履修指導を行います。
- ・博士前期課程では、お茶の水女子大学の開講科目を含む所定の単位を30単位以上、後期課程では、所定の単位を20単位以上修得することを修了要件とします。
- ・長期休業期間の集中講義や双方向TV講義システムを活用した講義、宿舍の優先提供などにより、お茶の水女子大学の授業の履修を支援します。



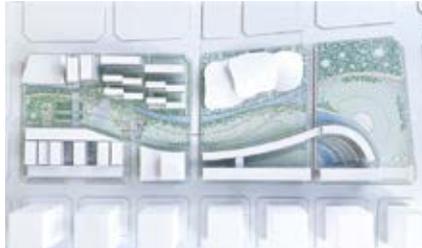
X線結晶構造解析装置を用いた分子構造の解明



電子工作やデータ分析などの要素技術を学ぶ演習



生体医工学エリアの実験室／モーションキャプチャシステム



IT企業のキャンパス計画



グローブボックスを用いたリチウムイオン二次電池評価セルの構築

女性リーダーとして、社会に翔び立つ日に向けて—

大学院・博士後期課程で、磨く。

1. 人間文化総合科学研究科・博士後期課程の目的

■人間文化総合科学研究科・博士後期課程の目的

人間文化総合科学研究科・博士後期課程は、研究者として自立して研究活動を行い、またはその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な研究能力およびその基礎となる豊かな学識を備えた人材を養成することを目的とします。

2. 人間文化総合科学研究科・博士後期課程の各専攻・講座の教育研究内容

学部	人間文化総合科学研究科	博士前期課程	博士後期課程
文学部	人文社会学科	人文社会学専攻	人文科学専攻 比較文化学講座 歴史や文学、言語に対する深い専門知識と、自国及び他国、他地域の多様な文化への幅広い学際的な視野にもついた研究能力を備えることを目指します。
	言語文化学科	言語文化学専攻	
	人間科学科	人間科学専攻	社会人間学講座 社会、文化、地理環境、人間行動、教育などに関する総合的で高度な知識と理論を十分に備え、個々の領域での独創的かつ専門的な研究能力と実践的な分析能力を身につけることを目指します。
生活環境学部	食物栄養学科	食物栄養学専攻	食物栄養学講座 健全で快適な食生活の創造及び現代の食に関する多様な問題の解決を目的として、食物の栄養性・機能性・安全性・調理加工性やヒトの代謝・免疫機構と関連した研究・教育を行います。
	心身健康学科	心身健康学専攻	心身健康学講座 生活環境、生活習慣の視点に立ち科学的に研究する生活健康科学領域、身体や運動行動を学際的視点で研究するスポーツ科学領域、心の成長や課題を科学的視点から研究する臨床心理学領域から構成され、多様な分野からのアプローチとともに本学の特徴である女性の視点を生かした高度な研究を行います。
	情報衣環境学科	情報衣環境学専攻	情報衣環境学講座 生活情報通信科学領域では、ICTに関する高度な知識を組み合わせ様々な分野での問題に対する新たな解決法を考案する能力、情報科学に関する最先端技術を身につけ主体的に課題を見つけ出し解決していく能力、高度な専門知識を社会へ還元するための情報発信能力とコミュニケーション能力を習得します。衣環境学領域では、衣環境学に関連する自然科学分野の高い水準の基礎学力、安全で快適な衣環境を設計し持続可能社会へ貢献できる能力、衣環境や衣生活に関する問題解決のための研究を遂行する能力を習得します。
	住環境学科	住環境学専攻	住環境学講座 安全・安心で、快適に生活することができる住環境を計画、設計、管理するために、住宅から都市にいたる多様な環境と人間生活のあるべき関係を、生活者の視点から構築するための、理論的かつ柔軟な考察力を習得します。
	生活文化学科	生活文化学専攻	生活文化学講座 生活・文化・社会に関する高度な専門的知識を前提に、生活環境学の視角から社会に生起する諸現象への批判的分析能力を獲得します。そのうえで、対応が求められる今日的諸課題の発見およびその実践的解決に貢献できる研究者および高度専門人材を養成します。
理学部	数物科学科	数物科学専攻	自然科学専攻 数物科学講座 数学と物理学が連携した高度な教育・研究を通じて、高い水準の数学と物理学の専門知識と技能を備えた人材を育成します。
	化学生物環境学科	化学生物環境学専攻	化学生物環境学講座 高度な化学、生物学、環境科学の教育・研究を通じて、物質や生物およびそれらを取り巻く自然環境を総合的にとらえることができる広い視野と正しい倫理観、広範な学術的素養と正確な論理的思考能力をもち、自ら立案した研究課題を独自の視点で解決することで先端的な学問体系の深化に寄与することができ、大学や企業等様々な場所で活躍できる人材を育成します。
		生活工学共同専攻	博士前期課程 博士後期課程 材料化学、機能・分子デザイン学、人間情報学、生体医工学、建築環境学の専門分野を横断したコラボレーションによる教育を行います。



開講授業科目 <http://koto.nara-wu.ac.jp/kym2003/syllabussearch.html>

専攻の概要

【博士後期課程】

人文科学専攻

本専攻は、歴史学、言語学、文学、社会学、地理学、心理学、教育学、哲学などの多様な人文系の学問分野から構成されています。これらの高度な専門教育を通して、固有の学問領域の研究を深化させるとともに、これまで分化の方向に発展してきた諸科学を統合する知見、すなわち「諸科学の人的意味づけ」を追求します。

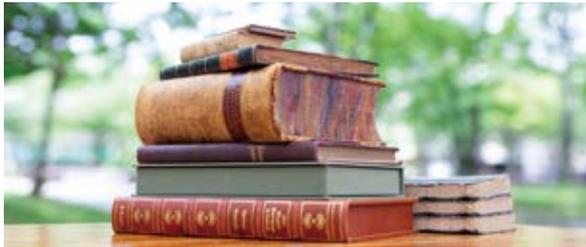
教育理念

人文科学専攻は、歴史学、言語学、文学、社会学、地理学、心理学、教育学、哲学など人文科学系の学問分野における高度な専門知識と判断力を身に付けて新たな領域を開拓し、社会における様々な問題を解決する能力を備えた人材を養成します。

比較文化学講座は、社会事象——言語認識、西欧世界——アジア世界という二つの基軸を立て、歴史学、文学、言語学などの文化に関わる多様な学問分野からこれを比較研究することを目指しています。高度な専門知識と判断力を身に付けて新たな領域を開拓し、社会における様々な問題を解決する能力を備えた人材を養成します。

社会人間学講座は、社会、文化、地理環境、人間行動、心理、教育などの分野に関する高度な専門知識を備え、論理的思考力と規範的判断力によって、主体的かつ協働的に社会の課題解決や福利実現や価値創造に向かう、独創的な研究能力と実践的構想力と行動力を身につけることを目指しています。

各分野の観点を軸にして、環境、社会、文化における人間行動を統合的に探究し、よりよい社会のあり方と生き方の構築に貢献する能力を備えた人材を養成します。



比較文化学講座

本講座においては、高度な知識を身につけ、研究能力を培うために、日本、中国、イギリス、アメリカ、ドイツ、フランスなど各地域の歴史、言語、文学に関する専門科目の授業は基本的に演習形式で行い、また必要に応じて調査やフィールドワークも採り入れています。外国研究では、当該地域の言語を用いた教育も行っています。また、歴史都市「奈良」についての学びを深めるため、国立文化財機構奈良文化財研究所や奈良国立博物館、宮内庁正倉院事務所から客員教員を迎えて、特色ある授業を開講しています。



中国文学とフェミニズムのゼミの風景（演習室にて）

求める学生像

- ・大学院での研究をもとにして、社会に貢献する意欲と熱意をもつ人
- ・人間の営みとしての文化現象を、情報の観点から分析し研究することに関心をもつ人
- ・ジェンダー・文化振興などの分野での専門的リーダーとして活躍しようとしている人
- ・インクルーシブな社会の実現あるいは文化や産業の振興において、教育・研究機関の研究者、または、行政、地域再生、社会福祉事業、NPO、NGOなどの高度専門職におけるリーダーとして活躍しようとしている人
- ・文献や資料の読解から、実験や調査、研究発表を含む研究活動において、必要な外国語能力を有している人
- ・国際的、特にアジア地域の発展に貢献しようとしている留学生、社会人

大学院の博士後期課程においてこのような志を実現するためには、前提として博士前期課程において修士論文またはそれに相当する学術論文の作成を通じて、上記にある分野の先端的研究に必要な専門知識、問題意識、資質・能力・活用力（思考力、判断力、表現力）、多様性において対話または協働する主体的な姿勢・態度、研究に必要な外国語能力を身につけていることが必要です。

社会人間学講座

本講座は、社会、文化、地理環境、人間行動、教育などに関する総合的で高度な理論と方法論を習得するために、各専門分野に応じた演習形式中心の授業を開講しています。持続可能な社会の構築に貢献する研究のための調査・分析方法の習得やフィールドワークの実践、さまざまな環境における人間行動や心身の在り方を問う研究のための文献・資料の読解や方法論の確立など、社会と人間に関わる多様な授業を展開しています。



茶生産農家の調査（京都府和束町にて）

自然科学専攻

本専攻は、数学、物理学、化学、生物科学、環境科学の5つの研究分野から構成されています。これらは自然科学の基礎的分野であり、複雑な自然現象をミクロからマクロまで、また、少数系からグローバルな世界まで、様々な階層の現象を、多様な視点、手段を用いて原理的かつ総合的に理解することを目的として発達してきた学問分野です。皆さんは、本専攻においてそれぞれの分野の最先端の教育を受け、自ら研究を進めることにより、その分野の高度な知識を身につけるとともに、新たな課題に挑戦する意欲を持てるようになります。

教育理念

自然科学専攻では、自然科学の基盤的学問である数学、物理学、化学、生物科学、環境科学の高度な教育・研究を通して、高度な専門分野の知識を基盤に自ら考え行動できるとともに、日々発展している学際・融合的分野の開拓を進められる人材の育成を目指します。その実現のために、専攻に、数学と物理学の教員が協力して教育・研究にあたる数物科学講座と化学・生物科学・環境科学の教員が協力して教育・研究にあたる化学生物環境学講座を設けています。

数物科学講座は、数学、物理学の視点から諸現象の理解を進め、その応用に向けた複合的なアプローチについて考えます。21世紀の高度情報化社会を支える科学技術の発展のために、新たな課題を発見し、その課題を解決する能力を持った人材の育成を目指します。

化学生物環境学講座は、化学、生物科学、環境科学の学問領域が連携した学術研究を遂行し、物質や生物およびそれらを取り巻く自然環境を総合的にとらえることができる広い視野と正しい倫理観、正確な論理的思考能力をもち、自ら立案した研究課題を独自の視点で解決することで先端的な学問体系の深化に寄与することのできる理系女性研究者の育成を目指します。

求める学生像

自然科学専攻では、次のような学生を求めます。

- ・自ら新たな問題を発掘し、それを基礎科学的観点から解決しようとする人
- ・自然科学全般に興味を持ち、高度に専門的で実践的な学術研究において独創性の高い研究を志す人
- ・人間と環境とのあり方を自然科学の手法に立脚して追求することを志す人
- ・人間環境の調和を考慮した物質の合成並びに化学反応に深い知識と技術を持ち、高性能・高機能性材料の新素材の開発を目指す人
- ・人間生活を取り巻く諸問題に対して、生命現象の理解に基づき健康・安全で快適かつ調和ある環境の構築を目指す人
- ・生活物質・素材に関連する深い知識と技術の修得を目指す人
- ・大学、独立行政法人研究機関、企業の研究所などにおける数学、物理学、化学、生物科学、環境科学に関連した研究分野の教育研究および研究開発に従事できる中核の人材及び高度な複合科学的教育指導者を志す人
- ・数学、物理学、化学、生物科学、環境科学などの基礎科学的素養の上に立って複合的発展的発想を行う能力を育てることのできる教育者を志す人

数物科学講座

数物科学講座においては、基礎科学的視点と応用科学的視点で深く関わる自然現象、あるいは人間と自然や社会が関わる新しいタイプの現象を対象として、諸現象の中に潜む法則や原理の発見、論理構造の解明、さらには未知の現象の予測など、数理的方法を用いた教育研究を行います。現代の高度情報社会を支えるべく科学技術が発展していくためには、新たな技術革新が不可欠と考えられます。そのためには諸現象の理解や応用への複合的なアプローチについて教育研究を行うことが必要となります。このような視点に基づき本講座では、数学、物理学が連携した高度、かつ最先端の教育・研究を通じて、基礎科学としての数学と物理学の高い水準の専門的知識と技能を備えるとともに、広い視野と深い専門知識を基盤にして諸現象を理解し課題を解決する能力と、現代社会の中で活躍できる力を身につけた人材の育成を目指します。



実験データ解析中の風景

化学生物環境学講座

本講座は、分子レベルで繰り広げられる反応・物性・機能性あるいは生体分子や遺伝子の振る舞いなどミクロな事象から、器官や組織が示す生命現象や生物個体とその集団機能などのマクロな事象、更にはその生命活動が展開されている地球環境の過去から現在への変化などグローバルな事象まで、時間的、空間的に幅広い階層をもつ自然界の事象を対象とした研究と教育を行います。化学コースでは分子を基盤とする新たな反応場や機能の開発、ミクロな世界での状態変化のダイナミクス、あるいは化学反応や合成による物質変換などについて理論・実験の両面から教育研究を行います。生物科学コースでは生体分子、細胞、組織、生物個体やその集団が示すさまざまな生物現象と、生物間や生物-非生物間の相互作用についての解明を目指した教育研究を行います。環境科学コースでは、人工衛星データなどを用いたグローバルレベルの地球環境変動と数理的手法を用いた生物集団の構造・進化と物理化学的環境との関わりに関する教育研究を行います。

3つのコースが連携して展開される教育研究により物質、生物、地球環境の調和の取れた発展へ向けて高度な知識を身につけ、社会に貢献できる人材を養成するのが本講座における目標です。



グローブボックス中での合成実験の様子

生活環境科学専攻

本専攻は、生活環境学部および博士前期課程生活環境科学系各専攻を基盤として、食物栄養学講座、心身健康学講座、情報衣環境学講座、住環境学講座、生活文化学講座の5講座から構成されています。生活に根ざした理論と実践の総合的学知を提供し、主体的でリーダーシップを発揮でき、幅広い知識と高度な研究能力・技術を備え、高度専門職業人として社会に貢献できる博士人材を養成します。

教育理念

生活環境科学は総合系複合領域学問であることから、広い視野に立って生活環境科学に関する知識を多角的に探求し、それらを統合的に体系化する論理的思考力が必要です。生活環境科学専攻は、生活に根ざした理論と実践の総合的学知を提供し、個々の学問領域における専門的な教育研究を推進するとともに、主体的でリーダーシップを発揮でき、幅広い知識と高度な研究能力と技術を備えた専門職業人として社会に貢献する人材を育成することを目指します。その実現のために、生活環境科学専攻には食物栄養学講座、心身健康学講座、情報衣環境学講座、住環境学講座、生活文化学講座を設けています。

求める学生像

- ・ 個々の学問領域の基礎となる専門知識を有し、新たな認識・知識の獲得に意欲的な人
- ・ 生活における諸問題を学際的に深く探究しようとする人
- ・ 専門的知識を再構築する意欲や新しい分野の展開に積極的に関わる意欲ある人
- ・ 幅広い事業分野で専門職業人として、女性リーダーとして社会貢献を目指す人
- ・ さまざまな分野で国際社会に貢献することを目指す人

食物栄養学講座

わが国では、急速な高齢化を経て、生活習慣病や認知症及び要介護状態等になる者の増加等が深刻な社会問題となっています。進展する高齢化と疾病構造の変化の中で、社会保障制度の持続可能性を高めるためには、生活習慣病等の予防に重点を置いて健康寿命の延伸等を図ることが極めて重要です。これら食物栄養に関する諸課題の解決のためには高度な専門性と豊かな学識が必要とされており、健康寿命の延伸に食物栄養学の果たすべき役割は重大です。

本講座では、健全で快適な食生活の創造及び現代の食に関する多様な問題の解決を目的として、食物の栄養性・機能性・安全性・調理加工性やヒトの代謝・免疫機構と関連した研究・教育を行います。また、疾病予防の領域において、医学、農学、薬学、情報科学、食生活学、社会医学を基盤として、分子・細胞レベルから生体、さらには人の集団を対象とする疫学研究まで、食物栄養学を俯瞰する視点からの研究・教育を行います。これらによって、国内外における食物栄養学領域の研究を先導する女性研究者や、高度専門職業人として当該職域を牽引し社会に貢献する人材を養成します。

心身健康学講座

人々が豊かな生活を営むためには、心身ともに健康であることが基盤となります。このため、心身の健康を担保する生活環境や社会的環境に対するニーズは極めて高くなっています。このような社会的ニーズに応えるためには、心と身体の健康に関する幅広い専門的知識に加えて、科学的視点と総合的人間理解の視点から実践的応用力を身につけ、今日的諸問題の発見および解決に貢献できる研究者及び実践力のある高度な専門人材を養成する必要があります。

本講座は、心身の健康を生活環境や生活習慣の視点から科学的に研究する生活健康科学の領域、身体や運動行動を学際的視点で研究するスポーツ科学の領域、そして、心の成長や課題を科学的視点から研究する臨床心理学の領域から構成されています。多様な分野からのアプローチと本学の特徴である女性の視点を生かした高度な研究により、心身の健康に関する今日的諸問題の発見および解決に貢献できる人材を養成します。



産学連携フェアへの出展



市民参加型公開講座

情報衣環境学講座

本講座は、素材学や管理学の分野に代表される衣環境学に関する領域と人工知能・コンピュータシステムに代表される情報通信科学に関わる領域の2つの領域から構成されています。現在の日本社会が抱える課題の一つである女性技術者・研究者や社会で活躍する女性リーダーの育成という観点からは、従来の理学や工学の基盤を更に強化し、全体の学術的基盤を底上げしながら、理学・工学的な手法で再認識された知識や解決方法を生活者や消費者に効率的に還元することによって、生活環境をより質的に向上させる担い手の育成が期待されています。また、経験に裏付けられた直感や感性に加え、緻密なデータ処理能力やデータ解析能力を身につけた、普遍的真理を追究する研究能力を持つ人材の養成も期待されています。本講座は、このような社会の要請に応えるために教育研究を行います。

衣環境学の領域では、高度な知識を活かした独創性の高い界面化学の基礎研究への動機づけを高め、管理学と関わる洗浄科学、界面化学・物理化学・素材学と関わる繊維構造学、衣環境材料学などの教育研究の場を提供します。生活情報通信科学の領域では、最先端ICTの知識と技術を活かした独立性の高い研究開発への動機づけを高め、コンピュータシステム関連分野における人工知能プロセッサを含むアーキテクチャならびにシステムソフトウェアの教育研究、ソフトウェア工学関連分野におけるプロジェクトマネジメントを中心とした情報システムの設計開発に関わる教育研究、アプリケーション関連分野におけるライフコンピューティングを中核に据えた人工知能や知的エージェントの教育研究、情報基礎関連分野における計算理論に関わる教育研究、などの場を提供します。

住環境学講座

住環境学は、安全・安心・快適な生活を可能とし、自然環境とも共生可能な住環境(生活空間)を総合的に創り上げることを目指した学問体系です。第二次世界大戦後の復興、高度経済成長を経て世界有数の経済大国となった我が国ではありますが、我々の暮らしを支える生活空間は今なお数多くの課題を抱えています。まず広いスケールの問題に目を向けると、地球温暖化に代表される気候変動に伴い発生頻度の増した台風・大雪などの極端気象、並びに将来の発生が危惧される大規模地震等に対応するハード(老朽化インフラの修繕など)、ソフト(災害対応システム整備、地域住民への情報提供・啓発など)両面での対応が求められています。また、視点を国内に移すと、少子高齢化に伴う高齢化・人口減少社会への対応、高度情報化社会の進展への対応、男女共同参画社会の構築、家族形態の多様化への対応など、数多くの課題に直面しています。これらの課題は今後の国内外の情勢、社会の発展、個人の嗜好・ライフスタイルの変化等に従い進展・変容するため、これらを的確に把握し、対応することのできる自発的な市民の育成、並びに社会の形成が求められています。

本講座は、日常生活から地球環境に関わる諸問題を生活者の視点から総合的に捉え、社会が求める安全で安心できる住まい、かつ快適で魅力的な住環境という要請に応え、住宅から都市にいたる多様な環境と人間生活のあるべき関係に配慮した住環境の構築と管理運営に関する幅広い知識と技能を有する高度専門職業人や研究者を養成します。本講座では、社会科学的方法を援用する住居論をはじめ、政策論、環境工学、構造工学、管理学、デザイン論などの多様な方法を用いた幅広い教育研究を実施します。

生活文化化学講座

2023年の男女格差を指数化した「ジェンダーギャップ指数」のランキングにおいて、日本は146か国中125位で2006年に公表が開始されて以降最低(政治分野では当該調査対象国中最低水準に近い138位)となり、日本社会のジェンダーギャップへの取り組みは依然国際的には功を奏しているとは評価し難い水準であることが浮き彫りになっています。ダイバーシティを推進し女性リーダーの育成をミッションとする本学における生活文化化学講座の役割は、このデータが示すように社会にあまねく存在しつつ現在まで焦点化あるいは可視化されてこなかったような諸課題に取り組むことです。本講座では、私たちの生活のあらゆる側面を、それらと不可分の文化的諸要素との相互的關係に視点をおいて分析するという学術的立場を背景とし、学部および大学院博士前期課程教育で実践してきたカリキュラムを博士後期課程にも反映させることを企図しています。この視点による学部・博士前期課程・博士後期課程の教育プログラムの貫徹によって、イノベティブにグローバル課題を解決する実践的能力を有する女性人材育成という課題に応えることが可能になると確信しています。以上のごとく本講座は生活環境にかかわるあらゆる事象のなかに研究対象を見出すことを特徴としており、発見した問題を人文科学もしくは社会科学諸領域の研究方法で分析します。したがって学問分野は歴史学、家族社会学、社会心理学、法学、経済学、ジェンダー論と多岐にわたるとい点にもっとも特徴があります。



連携市町村に赴いての地域貢献事業

教員の研究領域

教員の研究領域は、教員の所属する博士前期課程における専攻・コースごとに掲載しています。博士後期課程における教員の所属は、専攻ごとに次のとおり色により区分しています。

人文科学専攻
 生活環境科学専攻
 自然科学専攻
 生活工学共同専攻
 博士前期課程のみ担当
 兼任教員（※兼任教員は主任指導教員にはなれません）

【人文社会学専攻】

歴史学コース

准教授	村上 麻佑子	【人文科学専攻 比較文化学講座】	専門分野：日本古代史
先史から古代にかけての貨幣流通とその意義についての研究、および古代における災害・飢饉と貨幣の関係についての研究。			
准教授	田中 希生	【人文科学専攻 比較文化学講座】	専門分野：日本近現代史
文学や哲学を駆使し、人文科学的アプローチから日本における近代的なもの、人間的なものの意味を探究。			
教授	西村 さとみ	【人文科学専攻 比較文化学講座】	専門分野：日本文化史
「日本的」なるものの内実とその形成・変容の過程を、さまざまな文化事象にそくして考察する。			
教授	矢島 洋一	【人文科学専攻 比較文化学講座】	専門分野：内陸アジア史、イスラーム史
内陸アジア史、特にイスラーム時代の中央アジア史。スーフィズム(イスラーム神秘主義)の歴史、モンゴル帝国期の東西交流史、帝政ロシア統治期の西トルキスタン史等に関心がある。			
准教授	木村 容子	【人文科学専攻 比較文化学講座】	専門分野：西洋中世史
中世ヨーロッパの宗教史・文化史の研究。イタリア都市社会史の研究。			
教授	宮路 淳子	【人文科学専攻 比較文化学講座】	専門分野：考古学、環境考古学
遺跡から出土する考古遺物、環境との関わりを示す動植物遺存体や土壌といった遺物の分析を通じて、先史・古代の環境と人間との関わりを探り、当時の社会・経済基盤を考察する。			
准教授	佐藤 有希子	【人文科学専攻 比較文化学講座】	専門分野：視覚芸術論、日本東洋美術史
仏教美術史。特に7世紀から13世紀の毘沙門天像の成立と展開の様相について、日本にとどまらず、広く中国・朝鮮半島から中央アジアにいたる地域を対象とし、作品研究とともに関連する文献資料の徹底した分析を通じて、作品の社会的・思想的背景まで探る。			

地理学コース

教授	吉田 容子	【人文科学専攻 社会人間学講座】	専門分野：社会地理学、都市地理学、経済地理学
ジェンダーをはじめとする社会的諸関係が空間の構築や再編に関わる重要な要因であることを、都市空間における監視・統制、米軍基地周辺歓楽街の形成、地域労働市場と女性就業など、具体的な事例研究をつうじて明らかにする。			
教授	石崎 研二	【人文科学専攻 社会人間学講座】	専門分野：都市地理学、地理情報科学
都市の立地に関する理論を数理モデルによって再解釈し、現実地域におけるマクロな都市の立地動向を計量的に分析する。また、GISを用いた空間分析や地域データの統計分析を用いて、商業施設をはじめとする様々な施設の立地メカニズムを明らかにする。			
教授	西村 雄一郎	【人文科学専攻 社会人間学講座】	専門分野：行動地理学、時間地理学、社会地理学
グローバル化の中で起こっている生活の質の変化について、時間地理学の方法を用いて分析する。また、現在の日常生活に大きな影響を与えるようになったGPS(汎地球測位システム)やGIS(地理情報システム)と社会の関係について、明らかにする。			
准教授	浅田 晴久	【人文科学専攻 社会人間学講座】	専門分野：文化生態学、気候学、アジア地域研究
フィールドでの観察や機器を用いた計測により、自然環境の変化と地域住民の関係について明らかにする。インドやバングラデシュなど南アジアの村落部でフィールドワークを行い、地域の諸問題を考える。			

社会学コース

教授	小川 伸彦	【人文科学専攻 社会人間学講座】	専門分野：文化社会学、文化遺産論
「文化」生成の過程と機能に関する研究。特に現代において「過去」がどのように表象されているのかに関して、E. デュルケームの理論などを用いて研究。			
准教授	三部 倫子	【人文科学専攻 社会人間学講座】	専門分野：家族社会学、医療社会学、SOGI・LGBT
LGBT がどのように「家族をしている」(doing family) のかに関する研究／性的指向や性自認をめぐる医療上の課題とそれらの課題を乗り越える取り組みに関する研究を、主にインタビューや参与観察などの質的調査の手法を用いて検討する。			
教授	寺岡 伸悟	【人文科学専攻 社会人間学講座】	専門分野：社会学、観光社会学、地域社会学、メディア文化論
観光が文化や地域づくり・地域のマネジメントに及ぼす影響、メディアとの関係などを現実に即して研究。また質的な調査方法や研究方法をアクションリサーチなども含めて研究。			
教授	林 拓也	【人文科学専攻 社会人間学講座】	専門分野：社会学、計量社会学、社会階層
職業の分離や不平等がどのような構造を成しているかの諸相と、格差・不平等にかかわる人々の社会意識とそれを規定する要因を明らかにする。また、それらに関する社会調査および統計分析による計量社会学の方法論的な検討を行う。			
教授	水垣 源太郎	【人文科学専攻 社会人間学講座】	専門分野：地域社会学、組織社会学
地域社会のアクション・リサーチ／地域社会における地域労働市場、人口変動と育児生活環境の相互連関を量的・質的地域社会調査を用いて明らかにする。			

【言語文化学専攻】

日本アジア言語文化学コース

教授	鈴木 広光	【人文科学専攻 比較文化学講座】	専門分野：日本語史、翻訳論
キリシタン文献の翻訳論的研究、日本語書記と出版メディア・印刷技術との関係			
教授	野村 鮎子	【人文科学専攻 比較文化学講座】	専門分野：中国文学、中国女性史
(2025年3月31日退職予定) 中国古典文学、特に明・清の詩や散文における女性表象の研究。			
教授	奥村 和美	【人文科学専攻 比較文化学講座】	専門分野：上代日本文学
『萬葉集』、特に大伴家持の歌の比較文学的研究。			
教授	大平 幸代	【人文科学専攻 比較文化学講座】	専門分野：中国文学
魏晋南北朝の文化と文章表現についての研究。			
教授	磯部 敦	【人文科学専攻 比較文化学講座】	専門分野：日本近世・近代文学
近世・近代日本における書物の印刷・出版・流通・受容の実態解明とモデル化を目的とする研究。			
准教授	尾山 慎	【人文科学専攻 比較文化学講座】	専門分野：国語学
古代から現代までの日本語の音韻と文字・表記。			
准教授	前田 真砂美	【人文科学専攻 比較文化学講座】	専門分野：中国語学
現代中国語の文法と意味論。			
准教授	児島 啓祐	【人文科学専攻 比較文化学講座】	専門分野：日本中世文学
日本中世の歴史書・仏教文学・説話文学。			
准教授	吉川 仁子		専門分野：日本近・現代文学
夏目漱石作品の研究／日本近代文学における女性像。			

ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コース

教授 吉村 あき子	【人文科学専攻 比較文化学講座】	専門分野：言語学・英語学
(2025年3月31日退職予定) コミュニケーションにおけることばの使用について、認知的・語用論的・意味論的側面から、どのような規則性や制約があるかを研究しています。否定極性やメタ言語否定といった否定に関する現象を中心に、メタファー・メトニミー・アイロニーなどのレトリックも含め、幅広くことばの意味を研究対象にしています。		
教授 竹本 憲昭	【人文科学専攻 比較文化学講座】	専門分野：アメリカ文学(特に第二次大戦後冷戦期のアメリカ小説)
①アメリカのポストモダン小説(特にジョン・ホークスの作品)の研究 ②第二次大戦、冷戦を扱ったアメリカ小説の研究 ③ポピュラー・ミュージック・映画などアメリカのポップカルチャーの研究		
教授 齊藤 美和	【人文科学専攻 比較文化学講座】	専門分野：イギリス文学、特に英米の詩、伝記文学
専門は、近代イギリスの文学・思想・社会の研究。授業では、17世紀から現代までの詩をとりあげ、分析・批評を行う。伝記や児童文学、小説を扱う年もある。		
教授 市川 千恵子	【人文科学専攻 比較文化学講座】	専門分野：イギリス文学、近現代小説
19世紀後半から20世紀初頭のイギリス文学とジェンダー研究。授業では、女性の書き手を中心とする著述をジャンル横断的に読み、分析と批評を行う。		
教授 須賀 あゆみ	【人文科学専攻 比較文化学講座】	専門分野：言語学・英語学
①談話研究。主に日常会話にみられる指示(reference)現象を研究対象とし、相互行為と言語の関係について考察している。 ②語法研究。談話標識や指示表現等に関する語用論的分析と記述を行っている。		
教授 高岡 尚子	【人文科学専攻 比較文化学講座】	専門分野：フランス文学・ジェンダーと文学
19世紀フランス小説、主にジョルジュ・サンドの作品を題材に、ジェンダーなど社会の諸相を反映する作品構造の解説。		
教授 吉田 孝夫	【人文科学専攻 比較文化学講座】	専門分野：ドイツ文学
①近世16、17世紀のドイツ文学、とりわけ神秘主義、讃美歌、ソネット、奇譚集など ②ドイツ民間伝承 ③スイスの文学と文化史、とりわけローベルト・ヴァルザー		
教授 マーク・スコット	専門分野：Modern American Poetry and Elizabethan Prose	
1830年から1960年のアメリカ文学		
教授 トーマス・ハックナー	専門分野：日本文学	
日本近代文学におけるヨーロッパ文学の受容		
教授 イザベル・トノムラ	専門分野：フランス文学	
19世紀の小説を中心とするフランス文学研究		
教授 中川 千帆	【人文科学専攻 比較文化学講座】	専門分野：アメリカ・イギリスのゴシック小説。 特に女性作家による文学。
19、20世紀の英米女性文学における精神医学的分析を中心とするジェンダー研究。		
准教授 児玉 麻美	専門分野：ドイツ文学	
18世紀・19世紀ドイツの文学と思想・政治		
専任講師 森田 俊吾	専門分野：フランス文学	
19・20世紀フランスの詩とリズム論の研究		

【人間科学専攻】

教育学・人間学コース

教授 柳澤 有吾	【人文科学専攻 社会人間学講座】	専門分野：哲学・倫理学
生命倫理・環境倫理・戦争倫理などの研究 / 公共性およびコスモポリタニズムの研究 / 文化の現象学的研究		

博士前期課程のみ担当 兼担教員（※兼担教員は主任指導教員にはなれません）

教授	二井 仁美	【人文科学専攻 社会人間学講座】	専門分野：近代日本教育史、教育福祉史 児童自立支援施設に焦点をあてた教育史研究／児童福祉アーカイブズに基づく子ども史研究
教授	鈴木 康史	【人文科学専攻 社会人間学講座】	専門分野：身体文化学、大衆文化論 近代日本の身体文化・大衆文化・若者文化／身体思想史／武士道論
教授	藤井 康之	【人文科学専攻 社会人間学講座】	専門分野：音楽教育学、音楽教育史 戦前期～戦後期における小学校音楽の存在意義に関する研究／音楽教師の思想と実践の歴史研究
教授	保田 卓	【人文科学専攻 社会人間学講座】	専門分野：教育社会学、社会システム理論 教育システム理論研究／現代教育へのシステム論的アプローチ／高等教育システム論
准教授	小野寺 香		専門分野：比較教育学 東アジアにおける高大接続に関する研究／中等教育の国際化に関する研究

心理学コース

教授	中山 満子	【人文科学専攻 社会人間学講座】	専門分野：社会心理学、実験心理学 現代社会における対人関係に関する研究／インターネット利用・メディア利用に関する研究／日本語の認知過程に関する研究
教授	天ヶ瀬 正博	【人文科学専攻 社会人間学講座】	専門分野：認知心理学、認知工学、認知発達 日常的な認知活動に関する研究／空間認知に関する研究／倫理の心理学的基礎づけに関する研究
准教授	竹橋 洋毅	【人文科学専攻 社会人間学講座】	専門分野：教育心理学、社会的認知、モチベーション心理学 動機づけや自己制御を支えるメカニズムに関する研究／学力や強みを向上させる教育手法に関する研究
准教授	狗巻 修司	【人文科学専攻 社会人間学講座】	専門分野：発達心理学、臨床発達心理学、障害児心理学 自閉症幼児のコミュニケーションスキルの障害特性と発達に関する研究／乳幼児の対人的相互交渉スキルの発達に関する研究

【食物栄養学専攻】

教授	小倉 裕範	【生活環境科学専攻 食物栄養学講座】	専門分野：免疫学、微生物学、分子遺伝学 哺乳動物がそなえる自然免疫受容体の研究、自然免疫受容体系の異常によって生じる炎症性疾患の研究、担子菌類の研究など
教授	菊崎 泰枝	【生活環境科学専攻 食物栄養学講座】	専門分野：食品成分化学、分子調理科学 (2025年3月31日退職予定) 食用植物に含まれる生理機能成分の化学的研究／食品に含まれる抗酸化成分の化学構造と活性に関する研究／食品に含まれる機能成分の調理特性に関する研究
教授	高地 リベカ	【生活環境科学専攻 食物栄養学講座】	専門分野：公衆栄養学、疫学、栄養疫学 食物・栄養と、主に生活習慣病(がん・循環器疾患)の因果関係を実際の集団において検証する疫学研究(特に前向きコホート研究)、食事評価法(開発)に関する研究、減塩と味覚閾値変容の方法と効果に関する研究
教授	高村 仁知	【生活環境科学専攻 食物栄養学講座】	専門分野：食物科学、食品化学、食品分析学、調理科学 食品の健康維持機能と調理加工による変化に関する研究、食品のにおい成分に関する研究、脂質および脂質酸化物・関連物質の生成および分解機構に関する研究、ほか
教授	中田 理恵子	【生活環境科学専攻 食物栄養学講座】	専門分野：栄養生化学 葉酸代謝に関する研究(葉酸の特異的定量法を確立し、科学的に正確な量を基礎として、生体内での葉酸の機能を解明するための研究を推進。)
教授	松田 覚	【生活環境科学専攻 食物栄養学講座】	専門分野：医化学、分子生物学 (2025年3月31日退職予定) 生活習慣病における細胞内情報伝達系の解析/RNA干渉を用いた疾病の予防と治療に関する研究／食健康に関わる生化学的なアプローチ
准教授	前田 純夫	【生活環境科学専攻 食物栄養学講座】	専門分野：微生物学、食品衛生学、分子生物学、細胞生物学 生活環境・食環境において「新しい性質の細菌」はいかにして生まれるのか?、という観点から、①細菌の遺伝子水平伝播、②細菌の非遺伝的な抗生物質耐性化、などの研究。その他、食環境中での抗生物質耐性遺伝子の分布と解析など

【心身健康学専攻】

生活健康学コース

教授	鷹股 亮	【生活環境科学専攻 心身健康学講座】	専門分野：環境生理学、行動神経科学
エストロゲンが摂取行動に及ぼす影響 / 摂食行動のメカニズム / 体液調節(特に浸透圧)のメカニズム / エストロゲンが各種行動の日内リズムに及ぼす影響と光環境との関連			
教授	横山 ちひろ	【生活環境科学専攻 心身健康学講座】	専門分野：神経科学、行動薬理学、神経解剖学、進化生物学
利他行動の進化生物学的基盤 / 個性を生み出す脳のメカニズム			
教授	吉本 光佐	【生活環境科学専攻 心身健康学講座】	専門分野：自律神経生理学、循環生理学、環境生理学
交感神経活動の長期慢性計測による循環調節機能および高血圧病態に関する研究			
准教授	高浪 景子	【生活環境科学専攻 心身健康学講座】	専門分野：行動神経科学、神経内分泌学、脳機能形態学
知覚(かゆみ、痛み)の感受性を調節する環境および遺伝的基盤、心身相関のメカニズム			
助教	西牧 未央		専門分野：女性健康管理学、運動生理学
女性アスリートの減量が生態に及ぼす影響を明らかにすることを目的に研究している。			
助教	鍵本 明里		専門分野：視覚心理学、心理物理学、光環境学
光感受性神経節細胞(ipRGC)の視覚的效果 / 加熱調理時に適した照明に関する研究 / 光の心理・生理的效果			
教授	久保 博子		専門分野：住環境学、人間工学、建築環境工学
温熱環境の人体影響に関する研究 / 住居空間の快適性に関する研究 / 睡眠環境に関する研究 / 高齢者環境に関する研究 / 入浴環境に関する研究 / 住環境と女性の生活の調査(人工気候室実験・実際の生活空間での実測調査・アンケート調査)			
教授	芝崎 学		専門分野：運動生理学、環境生理学
環境変化に伴う循環および体温調節反応 / 身体活動に伴う脳・心臓循環動態			

スポーツ科学コース

教授	石坂 友司	【生活環境科学専攻 心身健康学講座】	専門分野：スポーツ社会学
スポーツ・メガイイベントの開催と地域・都市変容に関する研究 / 東京オリンピックの歴史社会学的研究			
教授	成瀬 九美	【生活環境科学専攻 心身健康学講座】	専門分野：身体表現学
動作速度調整から見た身体的コミュニケーション / ダンス・リズム表現運動の精神生理学的研究と臨床的応用(ダンス / ムーブメントセラピー)、子育て支援としての親子体操の実践課題			
教授	藤原 素子	【生活環境科学専攻 心身健康学講座】	専門分野：スポーツバイオメカニクス
(2026年3月31日退職予定)	スポーツ動作習熟時の中枢制御機構に関する研究 / スポーツ動作のスキルに関する動作分析的研究 / 筋出力の調節メカニズム		
教授	星野 聡子	【生活環境科学専攻 心身健康学講座】	専門分野：スポーツ精神生理学、スポーツ生理学
競技への動機づけや情動と関わる自律系・心臓血管系ストレス反応 / 視覚探索行動からみる認知的方略 / QOLを支える身体的・精神的機能の要因抽出とその実践研究			
専任講師	平塚 卓也		専門分野：スポーツ法学、スポーツ政策学
スポーツに関する法や政策の形成過程に関する研究			
助教	浅野 友之		専門分野：スポーツ心理学
「わざ・動きの熟達(“動きのコツ”の獲得)のプロセスおよびそれに伴う心理的変容 / パフォーマンス向上とパーソナリティ発達に関連 / スポーツ選手の心理サポート(スポーツメンタルトレーニング、スポーツカウンセリング)に関する研究			

臨床心理学コース

教授	伊藤 美奈子	【生活環境科学専攻 心身健康学講座】	専門分野：教育臨床心理学
(2026年3月31日退職予定)	学校教育現場を中心とした心理臨床実践に関わる研究。主たるテーマとしては、不登校、スクールカウンセリング、教育相談、教職員のメンタルヘルス等々。それ以外としては、思春期以降の人格形成に関する発達心理学的研究を行っている。		

博士前期課程のみ担当 兼担教員（※兼担教員は主任指導教員にはなれません）

教授	岡本 英生	【生活環境科学専攻 心身健康学講座】	専門分野：犯罪心理学、犯罪学、臨床心理学
犯罪の原因 / 再犯の防止 / 犯罪者処遇 / 犯罪に関連した社会問題 / 心理アセスメント			
准教授	黒川 嘉子	【生活環境科学専攻 心身健康学講座】	専門分野：臨床心理学、遊戯療法、乳幼児心理臨床
子どもへの遊戯療法や発達相談や子育て支援、発達障害への心理療法的アプローチなどを通して、心理臨床における「遊ぶこと」や「言葉」、乳幼児期からの原初的な他者との関係性などをテーマに研究している。			
准教授	梅垣 佑介	【生活環境科学専攻 心身健康学講座】	専門分野：認知行動療法、臨床心理学
うつ・不安に対する反芻焦点化認知行動療法 / うつに関する援助要請行動 / 心理援助へのアクセシビリティ / 曝露反応妨害法への動機づけプロセス			
助教	時岡 良太		専門分野：臨床心理学、人格心理学
学生相談領域での心理臨床実践 / 人格の多面性 / 心理療法における主体性 / 青年期における SNS 利用と友人関係の関連			

【情報衣環境学専攻】

教授	須藤 克仁	【生活環境科学専攻 情報衣環境学講座】	専門分野：自然言語処理・音声言語処理
人間の思考やコミュニケーションを豊かにするためのことばの処理の研究。機械翻訳、音声通訳、言語生成、ことばの評価など。			
准教授	新出 尚之	【生活環境科学専攻 情報衣環境学講座】	専門分野：数理論理学(論理プログラミング)、計算機科学
様相理論 / 時相理論を用いた証明システムやプログラミングシステムに関する研究、特にマルチエージェント環境のシステム記述 / 構築			
准教授	原田 雅史	【生活環境科学専攻 情報衣環境学講座】	専門分野：コロイド化学、界面化学、洗浄科学、X線分光学
界面活性剤ミセル内部でのナノ粒子の形成過程の研究、超臨界流体やイオン液体を用いた機能性ナノ粒子の合成と構造解析、乳化・可溶化に関連する研究、ドライクリーニングシステムの開発に関する研究			
専任講師	高田 雅美	【生活環境科学専攻 情報衣環境学講座】	専門分野：アルゴリズム、数値計算
数値計算ライブラリの開発および、並列プログラムの開発を行っている。数値計算ライブラリは、基本的な数学を計算機で行うために必要である。並列プログラムを用いることによって、大規模なデータや非常に長い計算時間を必要とする問題を複数の計算機で実行することができ、データの分散による小規模化と実行時間の短縮が狙える。			
准教授	鴨 浩靖	【生活環境科学専攻 情報衣環境学講座】	専門分野：ソフトウェア科学、数理論理学
距離空間・位相空間における計算可能性構造の研究。特に、関数解析学や一般位相空間論の基本的な定理の計算可能性の観点からの厳密化			
教授	駒谷 昇一	【生活環境科学専攻 情報衣環境学講座】	専門分野：情報教育、プログラミング教育、ソフトウェア工学
プログラミング教育が小学校でも行われるようになってきているが、情報教育が生活をどのように豊かにするか、教育方法や適切な教材の開発、教育の評価方法などを研究。			
教授	松本 尚	【生活環境科学専攻 情報衣環境学講座】	専門分野：計算機アーキテクチャ、オペレーティングシステム、並列・分散処理、深層学習
生活を便利かつ豊かにするための情報基盤技術に関する研究開発、計算機を高性能化もしくは高機能化するための機構および仕組みの研究開発、ディベンダブルかつスケラブルなシステムを構成するオペレーティングシステムの研究開発。			
教授	黒子 弘道		専門分野：高分子構造・固体核磁気共鳴法
繊維高分子の構造と物性の研究 / 固体 NMR による高分子の高次構造解析 / 固体 NMR および量子化学計算を用いた高次構造解析法の開発			
教授	才脇 直樹		専門分野：人間情報学、生体計測、ヒューマンインタフェース、ウェアラブルコンピューティング、エンターテインメントコンピューティング
安心・安全・快適な生活のための情報デバイス／システムの研究 / 日常生活における人間情報の計測と分析 / 脳機能計測を含む生体計測と分析 / 新しい機能やデザインを持つヒューマンインタフェースの研究 / 被服・素材と一体化した情報処理技術の研究 / 音楽情報処理をはじめとするエンターテインメント関連技術の研究			

【生活工学共同専攻】

教授	黒子 弘道	【生活工学共同専攻】	専門分野：高分子構造・固体核磁気共鳴法
繊維高分子の構造と物性の研究 / 固体 NMR による高分子の高次構造解析 / 固体 NMR および量子化学計算を用いた高次構造解析法の開発			

准教授	大背戸 豊	【生活工学共同専攻】	専門分野：高分子材料、ゲル、有機機能材料
分子の自己組織化を利用した有機機能材料の創製 / 機能性繊維の創製			
准教授	山本 健太郎	【生活工学共同専攻】	専門分野：固体イオニクス材料、電気化学、放射光 X線分析
電極材料の電子構造と電気化学特性の相関解明 / 放射光その場 X線計測による電気化学デバイス内の現象解析 / ポストリチウムイオン二次電池材料の開発 / 電気化学反応を利用した機能性無機固体材料の開発			
教授	三方 裕司	【生活工学共同専攻】	専門分野：機能性金属錯体、生物有機化学、グリーンケミストリー
エネルギー変換に関わる生体反応のモデル化研究 / 生体活性を有する小分子の合成と機能評価 / 環境計測のためのツールとなる化合物の開発 / 生体分子を基盤とする機能性有機材料の開発			
助教	庄司 淳	【生活工学共同専攻】	専門分野：有機色素、光機能性分子、超分子化学
色素を基盤とする有機分子の合成と機能評価 / 光で駆動する機能性分子の開発 / 分子集積で機能する超分子材料の開発 / 天然の光合成を模倣した分子システムの創製			
教授	才脇 直樹	【生活工学共同専攻】	専門分野：人間情報学、生体計測、ヒューマンインタフェース、ウェアラブルコンピューティング、エンターテインメントコンピューティング
安心・安全・快適な生活のための情報デバイス / システムの研究 / 日常生活における人間情報の計測と分析 / 脳機能計測を含む生体計測と分析 / 新しい機能やデザインを持つヒューマンインタフェースの研究 / 被服・素材と一体化した情報処理技術の研究 / 音楽情報処理をはじめとするエンターテインメント関連技術の研究			
教授	吉田 哲也	【生活工学共同専攻】	専門分野：機械学習、データマイニング、情報科学
グラフ構造に基づく学習 / 近似分解に基づく学習 / データ解析			
准教授	佐藤 克成	【生活工学共同専攻】	専門分野：システム情報学、触感情報学
衣服の触感・心地良さの定量化 / 触感提示・計測技術を用いたインタフェース / 温冷感を中心とした触感知覚特性の解明			
専任講師	安在 絵美	【生活工学共同専攻】	専門分野：人間情報学、福祉工学、ウェアラブルデバイス
医療・福祉・介護の現場で役立つ技術の開発 / 高齢者やこどもの足部・歩行評価 / 新しいウェアラブルデバイスやヒューマンインタフェース技術の研究 / 日常生活における計測と情報処理技術の研究 / 生体計測 / 機械学習を用いたデータ分析			
教授	芝崎 学	【生活工学共同専攻】	専門分野：運動生理学、環境生理学
環境変化に伴う循環および体温調節反応 / 身体活動に伴う脳・心臓循環動態			
専任講師	大高 千明	【生活工学共同専攻】	専門分野：生体力学、人間医工学
ヒトの随意的な運動制御・筋出力調節メカニズムの解明 / 筋電図・超音波エラストグラフィによる筋動態の解析 / 動作のキネティクス・キネマティクス特性の定量化			
教授	藤田 盟児	【生活工学共同専攻】	専門分野：建築史学、建築芸術学、文化財学
(2025年3月31日退職予定)	和室の生成史 / 日本文化の空間的性質の研究 / 町並みと建築の文化財的価値付けと保存再生		
教授	久保 博子	【生活工学共同専攻】	専門分野：住環境学、人間工学、建築環境工学
(2027年3月31日退職予定)	温熱環境の人体影響に関する研究 / 住居空間の快適性に関する研究 / 睡眠環境に関する研究 / 高齢者環境に関する研究 / 入浴環境に関する研究 / 住環境と女性の生活の調査(人工気候室実験・実際の生活空間での実測調査・アンケート調査)		
教授	中田 大貴	【生活工学共同専攻】	専門分野：認知神経科学、健康工学
運動制御・感覚・認知・感覚運動統合・実行機能・運動イメージに関わる脳活動動態の可視化 / 子どもの運動学習に関する脳内神経基盤・動作メカニズム / 感覚・運動機能向上を目的とした手法開発 / 運動が脳・認知機能に与える影響			
教授	長田 直之	【生活工学共同専攻】	専門分野：建築設計、都市・建築デザイン
集合住宅の設計手法 / UDCUの活動 / アートと空間に関するデザイン / 都市とヴォイドについての研究			

【住環境学専攻】

教授	根本 哲夫	【生活環境科学専攻 住環境学講座】	専門分野：ランドスケープデザイン、都市デザイン、緑地環境計画学
安全・快適かつ魅力的なランドスケープデザイン・都市デザインに関する検証と、その実践プロセスに関する研究・教育			
教授	藤平 眞紀子	【生活環境科学専攻 住環境学講座】	専門分野：住居管理学
木造住宅の耐久性向上に関する研究 / 住宅の損傷と維持管理に関する研究 / 住まいの管理の変遷 / 地域産材の有効利用に関する研究			

博士前期課程のみ担当

兼任教員（※兼任教員は主任指導教員にはなれません）

教授	山本 直彦	【生活環境科学専攻 住環境学講座】	専門分野：生活空間計画、ハウジング、都市史
アジアの都市・集落・ハウジングに関する研究 / 都市組織の形成過程に関する研究 / 第三世界における災害仮設住宅の供給に関する研究 / 伝統技術を用いた災害仮設住宅の構法・技術開発			
教授	吉田 伸治	【生活環境科学専攻 住環境学講座】	専門分野：都市・建築環境工学(熱・空気環境、環境物理)
数値解析・実測による屋外温熱環境の評価に関する研究 / 数値気候モデルを用いた都市・地域気候特性評価に関する研究 / 人体の不均一環境評価に関する研究 / 建物被覆・設備の工夫によるヒートアイランド対策・建物熱負荷削減・室内温熱環境緩和効果の評価に関する研究 / 住宅内の温熱・空気環境の安全性・快適性・健康増進に関する研究			
准教授	室崎 千重	【生活環境科学専攻 住環境学講座】	専門分野：住生活学、福祉住環境学、建築計画
多様化する家族の新たな住要求に関する研究 / 障害のある人も暮らしやすい住環境整備に関する研究 / 居住継続を支える地区環境ネットワークに関する研究			
准教授	加藤 亜矢子		専門分野：建築デザイン、建築設計、建築意匠論
住環境のデザインに関する研究 / 美術作品の展示空間に関する研究 / 都市の観察に基づく建築設計方法に関する研究 / 建築の表現に関する研究			
専任講師	許 載永		専門分野：建築環境学(光・音環境)、環境心理・生理
居住者の心理・生理を考慮した光・色彩環境に関する研究 / サーカディアンリズムに着目した可変照明システムに関する研究 / 地域の特色を反映したサウンドスケープの構築が都市の印象に及ぼす影響に関する研究			
専任講師	坂井 禎介		専門分野：建築史学、保存修復学
建築における見せかけの意匠技法の研究 / 書院や民家などの日本住宅における意匠や技法の歴史的研究 / 日本伝統建築の技法史の研究 / 文化財建造物の歴史 / 古建築の保存修復			
専任講師	角田 功太郎		専門分野：木質構造学
木造建築の耐震性能に関する研究 / 大地震に対しても安全・安心な家づくりに関する研究 / 新たな木質系材料による構造に関する研究 / 木造+他構造のハイブリッド構造に関する研究			
教授	藤田 盟児		専門分野：建築史学、建築芸術学、文化財学
和室の生成史 / 日本文化の空間的性質の研究 / 町並みと建築の文化財的価値付けと保存再生			
【生活文化学専攻】			
教授	大塚 浩	【生活環境科学専攻 生活文化学講座】	専門分野：法社会学、消費者法
法動員研究、弁護士論(消費者契約過程、消費者訴訟過程における法律家関与の影響を法動員(legal mobilization)研究のバースペクティブを用いた経験的手法により分析することを企図している。)			
教授	林田 敏子	【生活環境科学専攻 生活文化学講座】	専門分野：ジェンダー史学、比較ジェンダー論、イギリス近現代史
西洋近現代を中心とするジェンダー史研究。ジェンダー・バースペクティブによる軍事史、セクシュアリティ研究。			
教授	鈴木 則子	【生活環境科学専攻 生活文化学講座】	専門分野：日本近世史・医療社会史・生活史
(2025年3月31日退職予定) 日本近世の医療社会史と、日本近世・近代の女性生活史に関する研究指導を行う。医療社会史では、感染症をはじめとする病気や病人を人々がどのように認識・処遇したのかを分析し、日常生活の中の排除と共生の構造について歴史的に考察する。女性生活史では化粧・美容や妊娠・出産、セクシュアリティといった女性の身体性に関わる問題を中心的に扱う。			
教授	安藤 香織	【生活環境科学専攻 生活文化学講座】	専門分野：社会心理学、環境社会心理学、文化心理学、環境保全
文化によって、どのように集団への帰属意識、他者からの期待、社会的ネットワークの影響が異なるのか。特に現在は文化による環境配慮行動の規定因の違いを探る。			
教授	山崎 明子	【生活環境科学専攻 生活文化学講座】	専門分野：視覚文化論、芸術学、美術制度史、ジェンダー論
近現代日本における視覚文化に関する社会史・文化史的研究。視覚表象とジェンダー。			
准教授	澤田 佳世	【生活環境科学専攻 生活文化学講座】	専門分野：人口社会学、家族社会学、ジェンダー研究
社会現象としての人口と家族の変動、少子高齢化とグローバル化がすすむ現代社会と再生産領域の諸相			
准教授	青木 美紗	【生活環境科学専攻 生活文化学講座】	専門分野：食料・農業経済学、消費者行動論、協同組合論
環境保全型農業や地産地消、農林水産業の六次産業化などの持続可能な食と農の生産および消費に関する研究、商品の生産プロセスおよび社会的影響まで考慮した倫理的消費に関する研究、農業協同組合・生活協同組合・NPOなど非営利協同組織の事業や活動に関する研究			

准教授	安橋 正人	【生活環境科学専攻 生活文化化学講座】	専門分野：企業の経済学、イノベーション、開発経済学、政策史
企業の社会的責任とイノベーション、大学や公的研究機関の知識生産・教育活動、ソーシャルアントレプレナーの役割、経済開発に関わる諸問題、日本やアジアにおける政策形成(いずれも定性的研究と定量的研究の両方を重視している)			

【数物科学専攻】

数学コース

教 授	松澤 淳一	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：代数幾何学、代数学、幾何学
(2025年3月31日退職予定) リー群・リー環の構造と幾何学の研究 / 群の表現の組合せ論的研究 / 代数曲面の群論的研究			
教 授	稲場 道明	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：代数幾何学、代数解析学
代数的ベクトル束と有理接続のモジュライ空間の研究、モノドロミー保存変形とパンルヴェ方程式の幾何学の研究			
准教授	岡崎 武生	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：代数学、数論、多様体論
モジュラー多様体の研究 / 保型形式を用いた数論の研究、特にゼータ関数の研究			
准教授	片桐 民陽	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：多様体論、位相幾何学及び力学系、幾何学
グラフ多項式のカテゴリ化とそのコホモロジー群に関する研究 / 図式代数のグラフ多項式への応用に関する研究			
准教授	張 娟姫	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：位相幾何学、結び目理論
三次元多様体と結び目の研究 / 特に、ヒーガード分解と橋分解に関する研究			
准教授	村井 紘子	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：位相幾何学、幾何学
結び目、三次元多様体の位相幾何学的研究 / 葉層構造、ラミネーションに関する研究			
教 授	森藤 紳哉	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：関数方程式論、函数解析学
フーリエ解析とウェーブレット解析の研究 / これらを用いた函数空間の研究			
教 授	柳沢 卓	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：非線形解析、関数方程式論、函数解析学
(2026年3月31日退職予定) 数理物理に現れる非線型偏微分方程式に対する局所及び大域解析 / 特に、特異摂動法による境界層の研究			
教 授	梅垣 由美子	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：数論、複素解析学
様々なゼータ関数やL関数の研究 / 特に保型L関数の解析的研究や、それに関連する保型形式の研究			
教 授	篠田 正人	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：確率論、確率過程論
離散型確率モデルの解析 / 相互作用する無限粒子系モデルの研究 / フラクタル上の確率過程の研究			
准教授	嶽村 智子	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：確率論、確率過程論
境界上でジャンプや消滅をもつ連続型確率過程の研究 / 斜積拡散過程、ディリクレ形式に関する研究			

物理学コース

教 授	狐崎 創	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：非線形動力学
粉体や粉体からなるペーストなどを中心に、ソフトマターのレオロジーや破壊のダイナミクスに関する研究を行っている。			
教 授	高橋 智彦	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：素粒子論
大統一理論、弦理論の研究に取り組み、素粒子の相互作用を記述する標準理論を超えた新しい物理を探っています。			
教 授	比連崎 悟	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：原子核理論・強い相互作用に関する物理学
強い相互作用をするバリオン(陽子や中性子の仲間) やメソン(湯川中間子の仲間) から構成される π 中間子原子や η 中間子原子核、 K 中間子原子核などを研究している。			
教 授	宮林 謙吉	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：素粒子実験、高エネルギー物理学
素粒子物理学の実験的研究を行っている。現在は、高エネルギー加速器研究機構(KEK)の国際共同実験(Belle および Belle II 実験)に参加し、B中間子の崩壊過程におけるCP非保存測定やハドロン分光学に取り組むとともに、電磁カロリメーターの性能改良とSuperKEKB加速器のバックグラウンド測定に従事している。			

博士前期課程のみ担当 兼担教員（※兼担教員は主任指導教員にはなれません）

教授	山内 茂雄	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：宇宙物理学、X線天文学
X線天文衛星を利用した観測に基づく、高エネルギー天体現象の研究。特に私たちの銀河系の中心に位置するブラックホールを含む銀河中心領域の活動性、超新星爆発により生成される高温プラズマガスや高エネルギー粒子からのX線放射の研究を行っている。			
教授	山本 一樹	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：金属物性学、回折物性学
準結晶の構造研究、アルミニウム遷移金属合金の電子密度分布の研究、層間化合物の構造研究			
教授	吉岡 英生	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：物性理論、擬一次元電子系
一次元系および擬一次元系では、強い相関効果と量子ゆらぎのために通常の三次元物質とは質的に異なる特異な現象が存在する。分子性導体やカーボンナノチューブを対象にして、このような現象を理論的に研究している。			
准教授	石井 邦和	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：放射線物理学、原子物理学
低速から高速までのイオン衝突における様々な分子解離現象の研究を行っている。また近年ではキャピラリと呼ばれる細管を用いて大気圧雰囲気下へ引き出したイオンビームの特性評価及びその応用的研究として大気圧PIXEや大気圧RBS等の分析技術の開発も行っている。			
准教授	大木 洋	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：素粒子論
素粒子の現象論的研究や、格子理論による数値計算、量子場の理論の非摂動ダイナミクスの理解を通して、素粒子標準理論を超えた新しい物理を探索している。			
准教授	太田 直美	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：宇宙物理学、観測的宇宙論
X線や多波長の観測による宇宙の構造形成の研究。暗黒物質に支配された銀河団の形成進化の解明や大規模サーベイによる宇宙論応用を目指している。また、将来の国際X線衛星計画に向けて超高分解能X線カロリメータの観測立案を進めている。			
准教授	下川 倫子	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：非平衡物理学
生物のように自発的に動く物体の個々の挙動や集団運動に関する研究を行っている。			
准教授	下村 真弥	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：高エネルギー物理学
原子核物理学の実験的研究を行っている。高速に加速した様々な原子核(金・鉛・銅など)を正面衝突でぶつけた時にできる、クォークグルーオンプラズマ(QGP)と呼ばれている物質の生成と性質を研究対象としており、特に生成粒子の集団運動を解析している。			
准教授	土射津 昌久	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：物性理論
遷移金属化合物や分子性導体では、電子間に働く強い相互作用により、高温超伝導現象をはじめ、さまざまな興味深い電子状態が実現する。これら多体相関効果に起因する物理現象を理論的に解明することを目指した研究を行っている。			
准教授	永廣 秀子	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：ハドロン理論
強い相互作用ををするバリオンやメソン(総称してハドロンと呼ぶ)の性質・構造に関する研究を行っている。ハドロンの質量・相互作用・崩壊、及び有限密度中における性質の変化の研究を行うことにより、強い相互作用の世界の対称性やその破れによる現象について研究している。			
准教授	蜂谷 崇	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：高エネルギー物理学
原子核物理学の実験的研究を行っている。高速に加速した原子核(金・鉛・銅など)を正面衝突させることで生じる高温クォーク物質・クォークグルーオンプラズマ(QGP)の生成や性質を調べることで、極限状態での強い力の振舞いを明らかにすることを目指している。			
准教授	松岡 由貴	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：磁性、金属物性、中性子回折、結晶成長学
形状記憶効果を示す貴金属系マルテンサイト合金の相安定性や結晶構造解析に関する研究を行っている。また、電子スピン共鳴法を用い、植物が土壌鉱物に及ぼす影響についても研究している。			
助教	熊谷 嘉晃		専門分野：原子分子物理学、放射線物理学
様々な量子ビーム(イオンビーム、X線レーザー、電子線)を駆使し、物理化学反応を追跡している。最近では、分子の光化学反応や水中における放射線化学反応について研究を進めている。			

数物連携コース

教授	狐崎 創	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：非線形動力学
物質の流れや変形、生物の集団運動などに見られる時間・空間的なパターン形成に関する研究を行っている。			
教授	篠田 正人	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：ゲーム情報学
数理ゲーム、あるいはゲームとして捉えることのできる数理モデル・確率モデルにおける、利得を最大化する戦略の研究			
准教授	下川 倫子	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：非平衡物理学
流体や粉体の実験で観察されるパターンの形成ダイナミクスに関する研究を行っている。			

准教授	土射津 昌久	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：物性理論、分子性導体
分子性導体は、有機分子を構成単位として結晶を構成し、「分子内部の自由度」と「分子の配列の自由度」に起因して、さまざまな電子状態を示す。その本質を理解するため、重要な要因のみを取り込んで分子性導体を理想化(モデル化)し、どのような数学的・物理的法則が支配的になっているのかを明らかにすることを目指した研究を行っている。			
教授	松澤 淳一	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：群と離散幾何学
(2025年3月31日退職予定) 規則性を持った高分子集団、例えば液晶、界面活性剤、ミトコンドリア、網膜色素細胞、葉緑体、蝶の羽の鱗粉などに共通に見られる幾何学的構造の対称性の研究			
准教授	村井 紘子	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：トポロジーと折り紙
低次元トポロジーの研究及びトポロジー的な手法による折り紙の数理的研究			
教授	吉岡 英生	【自然科学専攻 数物科学講座】	専門分野：物性理論、量子伝導現象
リボン形状のグラフェンやヘリカルエッジ状態を有するトポロジカル絶縁体は、従来の金属や半導体とは異なる興味深い伝導特性を示す。このような系の量子伝導現象を数値的および解析的な手法を用いて研究している。			

【化学生物環境学専攻】

化学コース

教授	吉村 倫一	【自然科学専攻 化学生物環境学講座】	専門分野：コロイド・界面化学、ナノ化学、材料化学
界面活性剤や両親媒性高分子が形成するミセル、ベシクル・リボソーム、液晶、泡沫、エマルションなどソフトマターの分子集合体に関する研究が中心で、なかでも、X線・中性子小角散乱(SAXS・SANS)を用いたソフトマターのナノ構造解析に取り組んでいる。			
助教	河合 里紗	【自然科学専攻 化学生物環境学講座】	専門分野：界面物理化学、分子集合体化学、材料化学
新規に分子設計・合成したイオン液体や両親媒性物質などを用いたソフト界面に関する研究が中心で、なかでも、表面圧による単分子膜形成およびX線・中性子反射率(XR・NR)を用いたソフト界面の物性・機能と構造解析に取り組んでいる。			
教授	衣川 健一	【自然科学専攻 化学生物環境学講座】	専門分野：理論物理化学、理論化学、化学統計力学、分子シミュレーション
古典・量子統計力学的分子シミュレーションの手法を用いて、分子集団・分子集合体の静的・動的物性を解明し、先験的に物性設計を行う。			
准教授	太田 靖人	【自然科学専攻 化学生物環境学講座】	専門分野：計算分子科学、量子反応動力学
計算科学的手法による複雑多分子系の構造・反応機構の解明及び新しい理論計算法の開発。			
教授	片岡 靖隆	【自然科学専攻 化学生物環境学講座】	専門分野：有機化学、有機金属化学
独自に設計した配位子を利用して新しい遷移金属錯体を合成しその反応性を解明する。この知見を基にして新しい金属錯体触媒の開発を行う。特に、炭素-水素結合活性化反応と不斉合成反応を組み合わせた新しい環境調和型の反応の構築を目指す。			
教授	浦 康之	【自然科学専攻 化学生物環境学講座】	専門分野：有機金属化学、有機合成化学
遷移金属錯体触媒を用いる環境低負荷型有機合成反応、特に高原子効率的かつ高選択的な反応の開発と反応機構の解明。新触媒反応開発の基盤となる、有機遷移金属錯体の創製とその反応性に関する研究。			
助教	佐々木 捷悟	【自然科学専攻 化学生物環境学講座】	専門分野：有機化学、有機金属化学、核酸化学
生体内で形成される核酸の高次構造を標的とした機能性有機金属化合物の開発を行う。この有機金属化合物を活用し、生体内における核酸の高次構造を起点とした化学反応を誘発させ、これを通じて生物学的機能の精密な制御を目指す。			
准教授	松本 有正	【自然科学専攻 化学生物環境学講座】	専門分野：有機結晶、キラル化学
有機分子のキラリティーに関する研究や有機結晶の構造と物性に関する研究を行っており、特に結晶の対称性に由来する特異なキラル物性の発現を利用した光機能材料の開発を行っている。			
教授	藤井 浩	【自然科学専攻 化学生物環境学講座】	専門分野：生物無機化学、錯体化学、磁気共鳴
金属酵素の活性部位や反応中間体の電子構造や反応性を酵素モデル金属錯体から研究する。また酵素タンパク質の機能を大腸菌発現酵素やそれらの変異体酵素を用いて研究する。これらの研究から金属酵素の機能発現の分子機構を解明する。			
准教授	高島 弘	【自然科学専攻 化学生物環境学講座】	専門分野：生物無機化学、生体機能関連化学、光化学、錯体化学
金属蛋白質などを利用した、新規な化学修飾蛋白質の設計と光電子移動システムの構築。また、その高速ダイナミクス解析と人工的光機能化に関する研究。			
准教授	本田 裕樹	【自然科学専攻 化学生物環境学講座】	専門分野：生物化学、生体関連化学、生物無機化学
金属イオンを含む酵素の活性中心における反応機構の解明に向けた研究を展開する。これらの研究から得た知見をもとに、遺伝子組換え技術を利用した高機能型の変異酵素の作製や当該変異酵素を用いた新たな生体触媒反応系の開発を目指す。			

博士前期課程のみ担当 兼担教員（※兼担教員は主任指導教員にはなれません）

教授	梶原 孝志	【自然科学専攻 化学生物環境学講座】	専門分野：無機化学、錯体化学、磁気化学、超分子科学
			遷移金属イオンと希土類金属イオンの組み合わせによる分子磁性体の合成とその物性の解明。種々の物性測定による詳細な電子状態のモデル化と、構造制御による新規なナノ磁石の設計。
助教	堀井 洋司		専門分野：無機化学、錯体化学、磁気化学、超分子化学
			遅いスピン反転を示す磁性金属錯体の設計・合成と、種々の物性測定によるスピンドYNAMIKSの解明。分子の自己集合を利用した多機能性の磁性材料開発。
教授	中島 隆行	【自然科学専攻 化学生物環境学講座】	専門分野：有機金属化学、錯体化学、超分子化学
			多核金属間の協同効果により今までにない新しい物性、反応性を有する有機金属クラスター錯体の精密合成に関する研究。金属クラスターを基盤とした超分子化学の開拓。
助教	岩井 健人		専門分野：有機金属化学、有機合成化学、典型元素化学
			新規な配位子設計を基に多核金属クラスターを合成し、物性や反応性について研究する。特に、小分子活性化を指向した触媒反応の開発を行う。

生物科学コース

教授	鍵和田 聡	【自然科学専攻 化学生物環境学講座】	専門分野：細胞生物学、分子生物学、生化学
			真核細胞、特に出芽酵母を用いた、リン脂質合成・輸送の調節機構およびリン脂質-タンパク質間相互作用の研究
教授	西井 一郎	【自然科学専攻 化学生物環境学講座】	専門分野：細胞生物学、分子生物学、遺伝学
			藻類を用いた形態形成運動・細胞分化・多細胞化の分子生物学的研究
准教授	岩口 伸一	【自然科学専攻 化学生物環境学講座】	専門分野：分子遺伝学、応用微生物学
			不完全真菌の染色体変異及び倍数性制御の分子遺伝学的解析 / 環境真菌と揮発性有機化合物(MVOCs) に関する研究 / 花酵母を利用した発酵食品開発
教授	杉浦 真由美	【自然科学専攻 化学生物環境学講座】	専門分野：細胞生物学、分子生物学
			繊毛虫における接合誘導機構および接合型決定機構に関する研究 / 繊毛虫プレファリズマ属の交配フェロモンの多様性について / 繊毛虫における細胞間相互作用に関する研究
准教授	清水 隆之	【自然科学専攻 化学生物環境学講座】	専門分野：分子生物学
			光合成細菌・藻類・植物を用いたレドックス応答と生理機能の調節に関する研究
教授	酒井 敦	【自然科学専攻 化学生物環境学講座】	専門分野：植物生理学
			光合成・呼吸の環境応答、細胞小器官の増殖・分化、接触形態形成、過敏細胞死、他感作用に関する植物生理・生態学的研究
准教授	奈良 久美	【自然科学専攻 化学生物環境学講座】	専門分野：植物科学
			植物の環境応答と形態形成 / アクアポリンと生体膜を介した物質輸送 / 植物の生長・発生の調節機構
准教授	川野 絵美	【自然科学専攻 化学生物環境学講座】	専門分野：光生物学、動物生理学
			下等脊椎動物における非視覚系の光受容メカニズムに関する生理学的研究
准教授	堀 沙耶香	【自然科学専攻 化学生物環境学講座】	専門分野：行動生理学
			線虫や昆虫のさまざまな行動を研究対象とする。それらの行動を最適化する原型回路を、分子・シナプス・神経-筋ネットワークの各段階で解き明かすことを目標とする。
准教授	岡本 麻友美	【自然科学専攻 化学生物環境学講座】	専門分野：神経発生学
			発生期の哺乳動物大脳を対象に細胞の形態・動態から組織レベルで脳形成原理を探る研究
教授	遊佐 陽一	【自然科学専攻 化学生物環境学講座】	専門分野：生態学、行動学、進化学、応用動物学
			淡水・海洋生物の生態と行動に関する研究
教授	片野 泉	【自然科学専攻 化学生物環境学講座】	専門分野：陸水生態学
			陸水生態系における生物多様性の維持機構に関する研究

准教授 佐藤 宏明 【自然科学専攻 化学生物環境学講座】 専門分野：生態学、昆虫分類学
(2025年3月31日退職予定) 植物と植食性動物の相互作用と共進化 / 生物群集、特に寄生蜂群集の構造と機能 / 潜葉性小蛾類の分類と生態

准教授 井田 崇 【自然科学専攻 化学生物環境学講座】 専門分野：植物生態学
顕花植物の繁殖生態およびその進化、特に生物間相互作用や資源利用特性に関する研究

環境科学コース

准教授 久慈 誠 【自然科学専攻 化学生物環境学講座】 専門分野：大気科学、リモートセンシング、環境科学
気象観測データ解析による大気環境の研究

准教授 野口 克行 専門分野：地球惑星大気科学、リモートセンシング
人工衛星や探査機による観測データを用いた地球惑星大気科学

教授 村松 加奈子 【自然科学専攻 化学生物環境学講座】 専門分野：陸域リモートセンシング・環境科学
衛星データ解析による陸域リモートセンシングの手法と環境変動に関する研究

教授 高橋 智 【自然科学専攻 化学生物環境学講座】 専門分野：数理生態学、進化生態学、フラクタル幾何学
生態系の個体群動態と進化の数理モデルを用いた研究

教授 高須 夫悟 【自然科学専攻 化学生物環境学講座】 専門分野：数理生物学、数理生態学、理論生物学
生物集団の構造及び進化に関する数理的研究

助教 瀬戸 蘭美 専門分野：数理生態学、地球化学
数理的手法による生物と物理化学的環境の相互作用に関する理論研究

教授 吉村 倫一 【自然科学専攻 化学生物環境学講座】 専門分野：コロイド・界面化学、ナノ化学、材料化学
環境負荷低減を目指した新規界面活性剤の開発とナノ粒子を用いた有害物質除去に関する研究

教授 酒井 敦 【自然科学専攻 化学生物環境学講座】 専門分野：植物生理学、細胞生物学、生化学、生態生理学
高等植物と環境との関わり、特に光合成・呼吸の環境応答と他感作用に関する研究

准教授 奈良 久美 【自然科学専攻 化学生物環境学講座】 専門分野：植物科学
環境による植物の生長制御の仕組みとストレス耐性に関する研究

教授 遊佐 陽一 【自然科学専攻 化学生物環境学講座】 専門分野：生態学、行動学、進化学、応用動物学
淡水・海洋生物の生態・保全・防除に関する発展的研究

教授 片野 泉 【自然科学専攻 化学生物環境学講座】 専門分野：陸水生態学
淡水域の環境-生物相互作用、生物多様性維持機構に関する応用生態学的研究

准教授 佐藤 宏明 【自然科学専攻 化学生物環境学講座】 専門分野：生態学、昆虫分類学
(2025年3月31日退職予定) 昆虫を対象とした、分類と生活史形質に関する研究ならびに生態遺伝学的研究

准教授 井田 崇 【自然科学専攻 化学生物環境学講座】 専門分野：植物生態学
生物と環境の相互作用に関する研究

1 取得できる学位及び資格

本学大学院を修了した場合には、専攻に応じ次のとおり学位を取得できます。

【博士前期課程】

専攻	学位名	学位に付記する専攻分野の名称
人文社会学専攻	修士	文学又は学術
言語文化学専攻		
人間科学専攻		
食物栄養学専攻		生活環境学、学術又は家政学
心身健康学専攻		
情報衣環境学専攻		
住環境学専攻		
生活文化学専攻		理学又は学術
数物科学専攻		
化学生物環境学専攻		工学、生活工学又は学術
生活工学共同専攻		

【博士後期課程】

専攻	学位名	学位に付記する専攻分野の名称
人文科学専攻	博士	文学、社会科学又は学術
生活環境科学専攻		生活環境学、社会科学、情報科学、理学又は学術
自然科学専攻		理学又は学術
生活工学共同専攻		工学、生活工学又は学術

博士前期課程については、専攻に応じて次の教員免許状等の所要資格を取得することができます。

ただし、教員免許状（専修免許状）取得には、当該教科等の一種免許状を既に取得している又は取得要件を満たしている必要があります。

専攻	専修免許状					その他
	高等学校教諭	中学校教諭	小学校教諭	幼稚園教諭	栄養教諭	
人文社会学専攻	地理歴史、公民	社会				
言語文化学専攻	国語、英語	国語、英語				
人間科学専攻			○	○		
食物栄養学専攻	家庭	家庭			○	
心身健康学専攻	家庭、保健体育	家庭、保健体育				
情報衣環境学専攻	情報					
住環境学専攻	家庭	家庭				
生活工学共同専攻	家庭	家庭				
生活文化学専攻	家庭	家庭				
数物科学専攻	数学、理科	数学、理科				
化学生物環境学専攻	理科	理科				

2 単位互換制度

本学大学院は次に示す大学院と単位互換協定を締結しています。

これらの大学院の研究科で修得した単位は、博士前期課程にあつては10単位、博士後期課程にあつては4単位をそれぞれ超えない範囲で、本学大学院において履修したものとして認定することができます。

大学院名	研究科名
お茶の水女子大学大学院*	人間文化創成科学研究科
奈良先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科
奈良教育大学大学院	教育学研究科
神戸大学大学院*	人文学研究科
大阪大学大学院	理学研究科
京都大学大学院	文学研究科、人間・環境学研究科
奈良大学大学院	文学研究科、社会学研究科
帝塚山大学大学院	人文科学研究科、経済学研究科、法政策研究科

*博士後期課程は、お茶の水女子大学大学院と神戸大学大学院の2大学になります。

また、留学先大学への授業料等を不徴収とする学生交流協定大学への交換留学制度もあります。

ただし、本学への授業料の納付は必要となります。

留学先で取得した単位は本学が認定すれば、本学の単位として互換することができます。また、この留学期間は本学における在学期間として認められます。

国名	学生交流協定大学名
アメリカ	リーハイ大学
イギリス	レスター大学
インドネシア	インドネシア大学、ガジャマダ大学、アイルランガ大学理工学部*
オーストリア	グラーツ大学
韓国	梨花女子大学、ソウル大学生生活科学部*、忠南大学*
タイ	チェンマイ大学、タマサート大学理工学部*
台湾	東海大学、台湾大学文學院*、東呉大学
中国	西安交通大学、西安工程大学、蘇州大学、大連理工大学、南京大学、武漢大学、香港理工大学
ドイツ	トリアー大学第2文学部*
ニュージーランド	リンカーン大学
バングラデシュ	ダッカ大学、チッタゴン大学、バングラデシュ農科大学
フィリピン	フィリピン大学ディリマン校
フランス	パリ大学
ベトナム	トゥイロイ大学、ハノイ大学、ハノイ教育大学、ハノイ貿易大学、ベトナム国家大学ハノイ 外国語大学、ベトナム国家大学ハノイ 人文社会科学大学、ベトナム国家大学ハノイ 自然科学大学、ハノイ理工大学応用数学情報学部*、ベトナム高等数学研究所*
ベルギー	ルーヴェン大学
ポーランド	キャロル・マルチンコウスキー・ボズナン医科学大学
ロシア	ロシア人民友好大学

* 部局間交流協定大学

3 長期履修学生制度

本学大学院では、平成16年4月から「長期履修学生制度」を導入しています。

この制度は、職業を有している、あるいは育児、長期介護、病気等のために一般の学生に比べて研究活動・学習活動への時間数が限られるため、標準の修業年限（博士前期課程は2年、博士後期課程は3年）で修了することが困難な学生を対象に、事情に応じて長期の在学期間（博士前期課程は最長4年、博士後期課程は最長6年）を計画的に設定して履修することができる制度です。

長期履修学生として認められた場合の授業料は、標準の修業年限に支払うべき授業料総額を、あらかじめ認められた修業年限で除した額をそれぞれの年（学期）に支払うこととなります。

【授業料の納入例（令和6年度入学の場合）】

区 分		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	合 計
博士前期課程	標準の修業年限 (2年)の場合	年 間	535,800	535,800				1,071,600
		半期分	267,900	267,900				
	2年6月の場合	年 間	428,640	428,640	214,320			1,071,600
		半期分	214,320	214,320				
	3年の場合	年 間	357,200	357,200	357,200			1,071,600
半期分		178,600	178,600	178,600				
3年6月の場合	年 間	306,180	306,180	306,180	153,090		1,071,630	
	半期分	153,090	153,090	153,090				
4年の場合	年 間	267,900	267,900	267,900	267,900		1,071,600	
	半期分	133,950	133,950	133,950	133,950			
博士後期課程	標準の修業年限 (3年)の場合	年 間	535,800	535,800	535,800			1,607,400
		半期分	267,900	267,900	267,900			
	3年6月の場合	年 間	459,260	459,260	459,260	229,630		1,607,410
		半期分	229,630	229,630	229,630			
	4年の場合	年 間	401,850	401,850	401,850	401,850		1,607,400
		半期分	200,925	200,925	200,925	200,925		
	4年6月の場合	年 間	357,200	357,200	357,200	357,200	178,600	1,607,400
		半期分	178,600	178,600	178,600	178,600		
5年の場合	年 間	321,480	321,480	321,480	321,480	321,480	1,607,400	
	半期分	160,740	160,740	160,740	160,740	160,740		
5年6月の場合	年 間	292,260	292,260	292,260	292,260	292,260	146,130	1,607,430
	半期分	146,130	146,130	146,130	146,130	146,130		
6年の場合	年 間	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900	1,607,400
	半期分	133,950	133,950	133,950	133,950	133,950	133,950	

また、新入生だけでなく、在学中に条件が変化した在学学生も収容定員内の範囲で長期履修コースに申請することができます。ただし、在学中に長期履修学生として認められた場合は、認められた履修期間により算出された授業料を許可された翌年度から支払うことになります。

【在学中に長期履修学生として認められた場合の納入例】

区 分		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	合 計
博士前期課程	1回生在学中 に4年の長期 履修を認めら れた場合	年 間	535,800	267,900	267,900	267,900		1,339,500
		半期分	267,900	133,950	133,950	133,950		

※上記授業料の金額は、令和6年度授業料の金額に基づき計算しており、授業料の改定があった場合には、改定時から改定後の授業料が適用されます。

4 再チャレンジ型女性研究者支援制度（博士後期課程）

再チャレンジ型女性研究者支援制度とは、博士後期課程中途退学者向けの課程博士取得促進プログラムです。博士号未取得者のうち、本学又は他大学の大学院博士後期課程に休学期間を除き1年（長期履修学生の場合は1年相当期間）以上在学し、ライフイベント等（結婚、出産、子育て、親族の介護・死亡、就職・転職、病気等）により退学した者を対象として、課程博士の取得を促進する制度（「再チャレンジ型女性研究者支援制度」）を平成31年度入学者から導入しました。

再チャレンジ型女性研究者支援制度により入学する者からは、入学料を徴収しません。また、入学前の既修得単位の認定も行います（上限は10単位）。なお、従来の学生と同様に、長期履修学生制度や教育方法の特例制度も、申請することが出来ます。<http://www.nara-wu.ac.jp/nyusi/challenge.html>

5 博士前期課程修了者博士号取得支援制度（博士後期課程）

博士前期課程修了者博士号取得支援制度とは、本学大学院博士前期課程又は修士課程を修了し、1年以上の社会経験を経た者を対象として、本学博士後期課程への入学と博士号の取得を支援する制度です。

博士前期課程修了者博士号取得支援制度により入学する者からは、入学料を徴収しません。また、長期履修学生制度や教育方法の特例制度も申請することが出来ます。

本支援制度は2020年度入学者から適用しています。<http://www.nara-wu.ac.jp/nyusi/d-support.html>

6 奈良女子大学次世代研究者育成プログラム SGC-NEXUS（博士後期課程）《SGC Shattering the Glass Ceiling ～ガラスの天井を超え、社会や後進とのつながりを築いていくあなたを応援します～》

本学大学院では、優秀な女子学生が経済的負担や学位取得後のキャリアパスに過大な不安を抱えることなく、博士後期課程へ進学し研究できる体制を構築することを目的として、先行する2つのプログラムを改編し、2024年度より「奈良女子大学次世代研究者育成プログラム SGC-NEXUS」という新たなプロジェクトに取り組んでいます。このプロジェクトでは、学生への多面的な支援（経済的支援、研究力向上支援、キャリアパス支援）を行います。詳細は、本学 SGC フェローシップホームページ (<https://sgcfs.nara-wu.ac.jp>) を参照してください。

7 教育方法の特例制度

博士後期課程では「大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例」の制度を実施しています。

この制度は、入学時又は入学後において学業に専念できない事情を有する者に対して、教育上特別の必要があると認められる場合で、かつ、受入側である専攻の事情や教育環境が許す場合には、その者の事情を考慮し、夜間その他特定の時間又は時期（夏期休業など）において授業又は研究指導を行うものです。

8 入学料・授業料免除及び奨学金

入学料の免除等

経済的理由により入学料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合、入学料の全額あるいは半額を免除、または納付を一定期間猶予する制度があります。

授業料の免除等

経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合、授業料の全額あるいは一部の額を免除、または納付を一定期間猶予する制度があります。

授業料免除及び徴収猶予は前期分及び後期分それぞれに申請する必要があります。

前期分と後期分それぞれの申請に対して審査されるものですから、審査の結果、前期分授業料が免除されても後期分授業料も免除されとは限りません。前期分と後期分それぞれに定めた期間内に必要書類を添えた申請を受け付け、学業成績と家計状況を審査し、授業料を免除（全額または一部の額）及び徴収を猶予（納付を一定期間猶予）します。

なお、外国人留学生については、特に学業優秀と認められる者に、経済事情によらず授業料を免除する制度もあります。

奨 学 金

（1）日本学生支援機構の奨学金

独立行政法人日本学生支援機構が、教育の機会均等に寄与するため学資の貸与等を行い人材育成に資することを目的として、経済的理由により修学に困難がある優れた学生等に対して奨学金を貸与しています。卒業・修了後に返還された奨学金は、後輩の奨学金として再び活用されます。無利子の第一種奨学金と有利子の第二種奨学金があり、詳細については日本学生支援機構のホームページをご覧ください。（日本学生支援機構ホームページアドレス <http://www.jasso.go.jp/index.html>）

（2）地方公共団体や財団法人等の奨学金

地方公共団体や財団法人等民間育英団体が募集する奨学金制度があり、多くがホームページ等により公募がなされます。

近年本学へ募集の周知依頼があった主な奨学金（大学院生対象分）

- ・(公財) 戸部真紀財団（給付型）
- ・(公財) 京都府城陽市辻教育振興奨励金（給付型）
- ・(公財) 帝人久村奨学会（貸与型）
- ・(公財) 吉田育英会ドクター 21 奨学生（給付型）

《「授業料後払い制度」について》(博士前期課程)

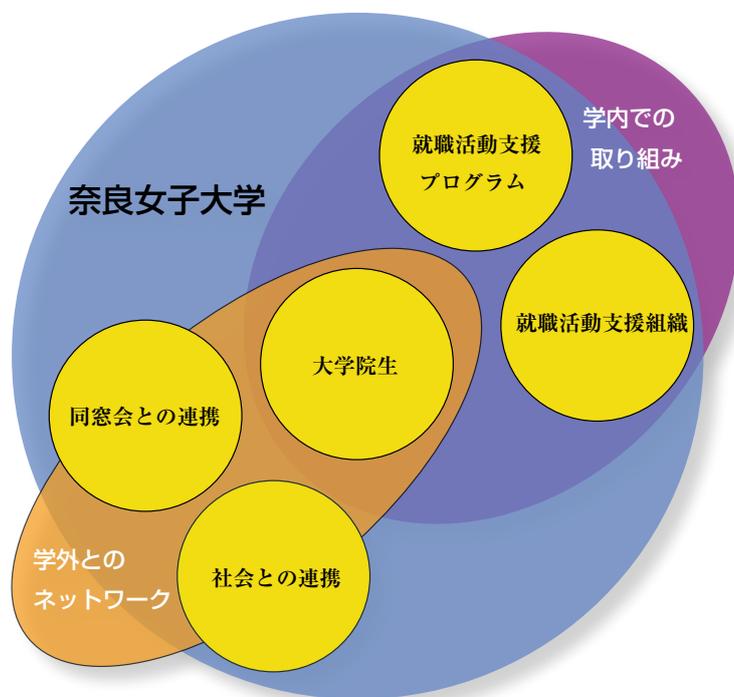
本制度は、在学中の授業料を国が立て替え、返還は修了後の所得に応じて「後払い」とする仕組みです。

詳細は、本学ホームページ (<https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/campuslife/scholarship/atobarai.htm>) を参照してください。

9 キャリア形成支援

社会の第一線で通用する 「キャリア」と「自立心」を育てる

大学院生が修了後、社会の第一線で活躍できる高度専門職業人、研究者、教育者となるために、本学では在学時から将来を見据えてキャリアを形成・開発するとともに、自立した人間として考え、判断し、行動できる力を養っています。



1 年間を通じた 「就職活動支援プログラム（行事）」

より効果的な就職活動ができるように、年間を通じて各種の就職活動支援プログラム（行事）を実施しています。なかでも学内合同企業説明会は、学生に最も関心が高く、この説明会を通じて企業理解を深めています。

一般就職対策の主な講座

自己理解講座、業界・企業研究講座、エントリーシート対策講座、ビジネスマナー講座、面接対策講座、理系学生向け講座、学内合同企業説明会、グループディスカッション実践講座 など

教員・公務員採用試験対策の主な講座

教員・公務員採用試験対策講座、国家・地方公務員採用試験説明会、公立学校教員採用試験説明会 など

2 全学挙げてバックアップ「就職活動支援組織」

学内に教員・事務職員で構成された就職支援部門を設け、全学挙げて学生の就職活動を支援するとともに、キャリアコンサルタントの資格を持つキャリアアドバイザーが、学生の進路や就職活動の個別相談を対面・オンライン双方で行うなど、学生一人ひとりの就職活動をバックアップしています。

3 在学時に社会体験「社会との連携（インターンシップ）」

企業と連携して中長期の研究インターンシップを実施する一般社団法人産学協働イノベーション人材育成協議会（C-ENGINE）に参画しています。

また、正課インターンシップ科目「実践型キャリア教育プログラムⅡ」を開講し、採用・連携実績のある企業・団体を受入先とした就業体験を含む5日間以上のプログラムを行う他、地方自治体や民間企業が実施するインターンシップにも、数多くの学生が実習生として積極的に参加しています。

4 全国に広がるOGネットワーク「同窓会との連携」

本学には日本全国に卒業生の同窓会「佐保会」が組織されています。佐保会では「OGによる就職支援活動」「佐保会東京支部による就職懇談会」など、各界で活躍するOGのネットワークを活かした支援活動を積極的に行っています。

10 学業・研究とライフイベントの両立、キャリア開発支援

学生から、女性研究者まで 育児、介護、キャリア開発まで 男女共同参画推進機構は心強い味方です

多様な大学院生、とりわけ育児や介護等のライフイベントと、学業・研究の時期が重なっている方が、どちらも諦めることなく、ご自身のキャリアを築くための支援をするのが、男女共同参画推進機構です。

1 学業・研究・仕事と育児・介護等を両立するために

・子育て支援システム「ならっこネット」

支援対象である本学関係者の学業・研究・仕事と出産・子育ての両立を支える、子どもの預かり・送迎等のサポートを行います。ダイバーシティ研究環境支援本部が開発した Web システム「Web ならっこ」を介して、利用者は、登録サポーターへの支援依頼から終了までを PC やスマートフォン等でフォローできます。通常（健康時）託児支援に加えて、病児・病後児保育支援の運用をしています。写真は学内での子どもの預かり支援のための専用託児ルーム「ならっこルーム」です。



ならっこルーム

・奈良女子大学「育児奨学金」

育児中の本学学部及び大学院に在籍する正規学生を支援しています。

【支援対象】 奈良女子大学子育て支援システム「ならっこネット」に登録・利用がある方

【支援内容】 半年ごとに利用経費の実費を授与（上限あり）。ただし、利用者の子どもの年齢が小学6年生以下に限ります。申請窓口は学生生活課学生支援係です。

・ワークライフバランス支援相談室

カウンセラーが、学生・留学生、教職員の相談を幅広く受けています。たとえば、思春期から更年期までのこころとからだの健康相談、妊娠・出産・育児・家族に関する相談、介護（高齢者・障がい者）に関する相談、生活環境や研究環境に関する相談など。

2 大学院生、ポストドクターに特化したキャリア開発支援

男女共同参画推進機構の中に位置づけられた、キャリア開発支援本部が、大学・公的研究機関や民間企業をはじめ、様々な分野で活躍できる女性人材の育成をサポートします。

・研究インターンシップ

主に以下の研究インターンシップのサポートをしています。

【C-ENGINE 研究インターンシップ】

産学協働イノベーション人材育成協議会による博士前期・後期課程学生を対象としたもので、中長期（1か月程度が多い）のテーマが主流。

【ジョブ型研究インターンシップ】

ジョブ型研究インターンシップ推進協議会による博士後期課程学生のみを対象としたもので、有給、長期（2か月以上を推奨）であることが特徴。



インターンシップ（社内成果発表会）

・キャリア相談・自己分析セミナー

就職活動や進路についての相談に加え、自己分析セミナーでは「キャリア」を幅広い概念としてとらえ、自分自身をていねいに見つめ直すことで「個人の特性を活かした働き方・生き方探し」を支援します。

・博士キャリア開発支援制度（DCD 支援制度）・英語論文校閲経費支援

博士後期課程学生と博士研究員の就職活動、学会発表の交通費支援（DCD 支援）や英語論文校閲経費の支援を行っています。

・各種イベントの実施・授業サポート

キャリア形成や研究力向上につながる各種セミナーを実施しています。また、博士後期課程の授業のサポートを行っています。

・その他の各種支援

SGC-NEXUS プログラムという博士後期課程大学院生に対する経済的支援やキャリアパス支援、学振特別研究員等の学外機関の研究助成申請支援等に関わる活動も行っていきます。

11 修了者の進路

区分	修了者数	内訳								
		大学院等進学	教員(大学、短大)	教員(幼小中高)	研究者	公務員	企業等	その他		
令和4年度修了者	博士前期課程	人文社会学専攻	15	2	0	1	0	2	8	2
		言語文化学専攻	14	1	0	6	0	1	1	5
		人間科学専攻	12	3	0	0	3	0	6	0
		数物科学専攻	35	2	0	2	3	3	23	2
		化学生物環境学専攻	39	0	0	0	13	1	24	1
		食物栄養学専攻	9	1	0	0	0	1	6	1
		心身健康学専攻	17	1	0	1	2	7	6	0
		情報衣環境学専攻	9	1	0	0	0	0	8	0
		住環境学専攻	21	2	0	0	0	1	12	6
	博士後期課程	生活文化学専攻	4	0	0	0	0	0	2	2
		生活工学共同専攻	15	1	0	0	4	0	10	0
		比較文化学専攻	3	0	0	0	0	0	0	3
		社会生活環境学専攻	2	0	0	0	0	0	0	2
		自然科学専攻	4	0	0	0	2	0	1	1
		共生自然科学専攻	2	0	1	0	0	0	0	1
	令和3年度修了者	博士前期課程	生活工学共同専攻	1	0	0	0	0	1	0
			生活環境科学専攻	1	0	0	0	0	0	0
人文社会学専攻			16	2	0	2	0	1	5	6
言語文化学専攻			6	2	0	0	0	0	3	1
人間科学専攻			9	0	0	1	0	3	4	1
数物科学専攻			31	4	0	1	2	1	22	1
化学生物環境学専攻			51	4	0	1	15	3	25	3
食物栄養学専攻			12	0	0	0	3	3	6	0
心身健康学専攻			16	0	0	0	0	5	11	0
博士後期課程		情報衣環境学専攻	11	2	0	0	0	0	8	1
		住環境学専攻	28	1	0	0	0	2	14	11
		生活文化学専攻	2	1	0	0	0	0	1	0
		生活工学共同専攻	10	0	0	0	3	1	5	1
		比較文化学専攻	4	0	0	0	0	0	0	4
		社会生活環境学専攻	4	0	2	0	0	0	0	2
令和2年度修了者		博士前期課程	複合現象科学専攻	3	0	0	0	0	2	1
			生活工学共同専攻	2	0	0	0	0	0	1
	生活環境科学専攻		1	0	1	0	0	0	0	0
	人文社会学専攻		10	2	0	2	1	0	4	1
	言語文化学専攻		9	2	0	2	0	0	2	3
	人間科学専攻		9	3	0	1	0	1	3	1
	人間行動科学専攻		0	0	0	0	0	0	0	0
	数物科学専攻		34	2	0	3	1	0	27	1
	化学生物環境学専攻		36	1	0	0	9	1	20	5
	数学専攻		0	0	0	0	0	0	0	0
	物理科学専攻		0	0	0	0	0	0	0	0
	情報科学専攻		0	0	0	0	0	0	0	0
	食物栄養学専攻		8	1	0	0	1	0	6	0
	心身健康学専攻	20	0	0	0	3	7	8	2	
	博士後期課程	情報衣環境学専攻	5	0	0	0	0	0	5	0
		住環境学専攻	23	0	0	0	0	4	15	4
		生活文化学専攻	3	0	0	0	0	0	1	2
生活工学共同専攻		6	0	0	0	0	0	6	0	
博士後期課程	比較文化学専攻	4	0	0	0	0	0	0	4	
	社会生活環境学専攻	3	0	2	1	0	0	0	0	
	共生自然科学専攻	1	0	1	0	0	0	0	0	
	複合現象科学専攻	1	0	0	1	0	0	0	0	
生活工学共同専攻	3	0	1	0	0	0	1	1		

※「その他」欄は、家事従事者、未定者、不明者などである。

12 大学院修了者の主な就職先企業等名一覽

(近年実績)

博士前期課程	人文社会学専攻	京都府 長浜市 埼玉県教育委員会(高等学校) (社)恩賜財団済生会支部静岡県済生会 京都中央信用金庫 (株)ファーストリテイリング デイライト(株) カトーレック(株) 損保ジャパンパートナーズ(株) 三井住友銀行(中国)有限公司 FPTジャパンホールディングス(株)
	言語文化学専攻	名古屋市 島根県教育委員会(高等学校) 長野県教育委員会(高等学校) 栃木県教育委員会(高等学校) 育英西中学校・高等学校 東洋大学附属姫路中学校・高等学校 愛光学園 (株)ウィルウェイ
	人間科学専攻	尼崎市 愛知県 ウイツ(株) (株)date (医)宗紀会つくだクリニック 浜松医科大学医学部附属病院 京都大学 (一社)公心会 あいち保健管理センター
	食物栄養学専攻	宮崎県 東芝情報システム(株) (一財)日本食品分析センター 金沢大学附属病院 パナソニック(株) 日本食研ホールディングス(株) ベル食品(株)
	心身健康学専攻	人事院 法務省大阪矯正管区 鳥取県 東京都 京都市 奈良県教育委員会(高等学校) 田村薬品工業(株) WDB(株) (株)ワールドインテック スミセイ情報システム(株) 日立グローバルライフソリューションズ(株) (株)エアウィーヴ あさひKids倶楽部 (公財)大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院
	情報衣環境学専攻	ローム(株) (株)オープンストリーム (株)野村総合研究所 京セラドキュメントソリューションズ(株) サイレックス・テクノロジー(株) 三菱電機(株) パナソニックインフォメーションシステムズ(株)
	住環境学専攻	佐久市 フィガロ技研(株) 似鳥(中国)投資有限公司 ホシザキ(株) 凸版印刷(株) (株)インテリックス 隈研吾建築都市設計事務所 三協立山(株) 億景(株) (株)やまむらや (株)ピーエムコンサルタント 鳳コンサルタント(株) (株)山下設計
生活文化学専攻	(学)文化学園 (株)いけうち	
生活工学共同専攻	凸版印刷(株) (株)インタージ (株)富士通ゼネラル (株)クボタ ゲンゼ(株) クラウドエース(株) (株)六角屋 (株)ノーリツ (株)コーエーテクモホールディングス (株)近藤紡績所 スミセイ情報システム(株) (一財)佐賀県環境科学検査協会 新菱冷熱工業(株)	
数物科学専攻	和歌山県 宇陀市 奈良県 大阪府教育委員会 賢明女子学院中学校・高等学校 ローム(株) 日東電工(株) 新明和工業(株) パナソニックインフォメーションシステムズ(株) 村田機械(株) 矢崎総業(株) 住友電気工業(株) (株)クボタ 富士電機(株) (株)島津製作所 アンリツ(株) (株)豊田中央研究所 日本製鉄(株) JFEシステムズ(株) SOLIZE(株) アクセンチュア(株) 三菱重工業(株) 三菱電機ソフトウェア(株) 任天堂(株) NECソリューションイノベータ(株) (株)村田製作所 日産車体(株) オムロン(株) (株)野村総合研究所 セコム(株)	
化学生物環境学専攻	奈良県 佐藤薬品工業(株) 凸版印刷(株) (株)クボタ (株)アステックペイント アイカ工業(株) ENEOS(株) 協和化学工業(株) (株)三宝化学研究所 マクセル(株) 住友電工システムソリューション(株) 富士電機(株) 住友電気工業(株) 日本ポリマー工業(株) (株)アリミノ (株)スタッフサービス DIC(株) サンスター(株) パナソニック(株) テイカ(株) 日産自動車(株) (株)アルビオン (株)テクノーブル 小岩井乳業(株) (株)日立建機ティエラ タカラバイオ(株) 三菱重工業(株) 小池化学(株) (株)ソーキ アドバンテック(株) (株)ウェザーニューズ NECソリューションイノベータ(株) 三菱電機ソフトウェア(株) (株)中電シーティーアイ 三菱電機(株) (一財)日本気象協会	
博士後期課程	共生自然科学専攻	奈良女子大学
	生活工学共同専攻	TOTO(株)
	自然科学専攻	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター (株)建設環境研究所 京セラ(株)

学位取得者の論文題目一覧 (2024年3月修了者)

論文題目	学位の種類 (専攻分野の名称)
日本古代中世における都市変容の研究 —平城京を通して—	博士(文学)
平安・鎌倉期における色彩表現の研究	博士(文学)
空き家管理の現状把握と地域住民組織による空き家管理の可能性に関する研究	博士(学術)
韓国の教育大学生における職業選択と教師像 —日本との比較の視点から—	博士(学術)
戸建て住宅の空き家を住まい以外の用途で利活用するための研究 —初期費用と改修工事を中心に—	博士(学術)
新規ジェミニ型およびトリメリック型カチオン界面活性剤の界面吸着と 会合挙動に関する研究	博士(理学)
炎症性疾患に対する食品成分の抗炎症作用と病態改善効果の検討	博士(生活環境学)
Extreme autotomy and ability of regeneration in kleptoplastic sacoglossans (盗葉緑体をおこなう嚢舌類における自切・再生現象の解明)	博士(理学)
Seasonal sex ratio variation and sex determination mechanism in the rhizocephalan <i>Peltogasterella gracilis</i> (寄生性フジツボ類フサフクロムシの季節的性比変動と性決定機構)	博士(理学)
Study of the excitation spectra of single-heavy baryons in a quark-diquark model (クォーク・ダイクォーク模型による重いバリオンの性質)	博士(理学)
Modified heat kernels and long-time profiles to the n-dimensional heat equation (修正熱核とn次元熱方程式の長時間形)	博士(理学)

学位取得者の論文題目一覧 (2023年9月修了者)

論文題目	学位の種類 (専攻分野の名称)
近現代中国における女性の婚姻自主権と離婚に関する研究	博士(文学)
近代中国における剪辮運動の展開	博士(文学)
ギャロン、ムヤ、カンバチベット族集落の空間構成に関する比較研究 —四川省カンゼチベット族自治州を対象として—	博士(生活環境学)
精神科病院の事業継続計画(Business Continuity Plan)に関する研究	博士(学術)
昭和戦時期における植芝盛平の思想と武道論の研究	博士(文学)

在学者・修了者の声

在学者の声

【博士前期課程】

人間文化総合科学研究科 博士前期課程
生活工学共同専攻（2023年4月入学）

私は本学の博士前期課程に進学し、有害金属イオンであるカドミウムイオンを検出する蛍光センサー分子の開発を行っています。研究で行っている有機化学実験は詳細な条件検討が必要で、何度も困難に直面しましたが、周囲の友人と積極的に議論することや、先生方の助言のお陰で乗り越えることができています。また、豊富な実験装置など恵まれた実験環境で、講義で学んだ化学反応を実際に行うことに喜びを感じながら楽しく研究生活を過ごしています。

私が所属している生活工学共同専攻は、化学だけでなく建築や情報など様々な分野が融合した専攻です。そのため、他分野の方に自分の興味関心を分かりやすく伝える力が必要だと感じています。また、大学院では学部とは異なり、自分で考え主体的に行動する力も必要だと日々の研究や学会を通じ感じています。そのため、疑問に対してすぐに答えを求めるのではなく、まずは自分で調べて考え、自身の考察を元に先生と議論することや他者に自分の考えを分かりやすく伝えることを常に心掛けています。本学では先生方との距離が近く、丁寧に指導をしていただくことで、日々学びの多い研究生活を過ごしています。今後もこの恵まれた環境を活かし、挑戦を続けて自身の研究をより深めると同時に、主体性や柔軟な思考力を養っていきたいと考えています。



【博士後期課程】

人間文化総合科学研究科 博士後期課程 人文科学専攻
社会人間学講座（2022年10月入学）

フランスにおける1920年代を中心とした日本文化の移入について、フランス人作曲家モーリス・ドラージュと彼の作品に焦点を当てて研究をしています。現在教員をしながら、藤井康之先生のゼミでご指導を受けています。近現代のフランス芸術歌曲をレパートリーを中心としながら演奏活動、そして音楽療法の臨床にも関わっています。音楽というツールを目的と状況によって使い分けている、といった日々です。

音楽高校、音楽大学で声楽を学び、その後フランス留学を経て、奈良教育大学修士課程でもドラージュの作品に焦点を当てて論文を書いたのですが、さらに深く研究を続けたい、と思ったのが博士後期課程に進学の動機です。修士課程在籍時に、単位相互制度を利用して藤井先生の授業を履修し、ぜひここで学びたい、と志望を決めました。

大学では、同期の仲間だけでなく学部や博士前期課程の学生の皆さんとも交流があります。個々の研究テーマは異なりますが、様々な研究の切り口を知り、研究方法を学ぶ良い機会をいただいております。

西洋音楽移入の経緯から、クラシックのジャンルではドイツ音楽が主流でした。私が演奏活動の主なレパートリーとしているフランス歌曲は今もあまり知られていないのが現状です。今後、研究を通して、フランス音楽やフランスの作曲家についての普及や理解に、自分が関わり続ける人生を過ごしたいと思っています。



修了者の声

【博士前期課程】

人間文化総合科学研究科 博士前期課程 数物科学専攻
数学コース（2024年3月修了）

私は数学の中でもトポロジーと呼ばれる分野を研究しています。学部時代も本学の数学コースに所属しており、そのまま内部進学しました。

トポロジーはよく「柔らかい幾何学」と言われ、例えばドーナツとマグカップを同じ形だと思えるようにして図形の本質的な性質を調べる分野です。本学数学コースではこのトポロジーの研究が盛んであり、学部時代からたくさんの先生方からご指導いただき充実した環境で研究に取り組むことができました。

私が専攻する分野は若手の研究発表の場が多く設けられていることもあり、修士時代はさまざまな研究集会で発表することができました。発表を通して国内外問わずたくさんの数学者と知り合うことができ、数学の研究が一層楽しくなりました。また英語による研究発表や論文執筆の機会をいただき、貴重な経験をたくさんさせていただきました。

修了後は本学の博士後期課程への進学を予定しています。奈良女子大学という落ち着いた環境で自分なりの数学を身につけることができた経験は、今後の研究活動に向けた貴重な財産になると思います。

【博士後期課程】

人間文化総合科学研究科 博士後期課程 生活環境科学専攻
食物栄養学講座（2024年3月修了）

私は学部学生時代から合計9年間を本学の食物栄養学科で過ごし、今春で修了の時を迎えます。学部4年次からは食医化学研究室に所属し、食を通じた疾患の病態緩和を目指して日々研究に取り組んできました。具体的には、高脂肪食によって誘発される脂肪肝や、薬剤誘発性の腎疾患、潰瘍性大腸炎など、様々な疾患に焦点を当て、培養細胞や疾患モデルマウスを用いて、それらの炎症緩和に寄与する食品成分の探索やそのメカニズムについて研究してきました。食品成分としては、身近な野菜や果物から単離した菌や短鎖脂肪酸、機能性食品成分などに注目し、それらを組み合わせた相乗効果なども検証しました。これらの研究から、食事による疾患の予防や治療の可能性を見出すことができました。

本学ならではの和やかな雰囲気や、少人数であるからこそその充実した教育環境により、のびのびと研究に取り組むことができたと感じています。また、6年間同じ研究室に所属していたため、1つの研究テーマに対して時間をかけて様々な角度からアプローチできたことも私の強みになったと思います。さらに、学内外のコンテストや研究内容とは異なる課外活動、講義に参加する機会にも恵まれ、大きく成長することができました。本学で得た学びや経験を活かし、今後も研究に邁進していきたいと考えています。



入試情報 <http://www.nara-wu.ac.jp/entrance.html>

奈良女子大学大学院に関する情報について、ホームページから確認することができます。学生募集要項のダウンロード、入学者選抜状況や過去問題も掲載しています。最新の入試情報はホームページに掲載しますので、必ずホームページをご確認ください。



資料請求 <http://www.nara-wu.ac.jp/nyusi/nyusi4.html>

大学院案内や学生募集要項を請求できます。大学院博士前期課程及び生活工学共同専攻（博士前期課程・博士後期課程）を志願される方は、学生募集要項が必要となります。



大学院個別相談会 <http://www.nara-wu.ac.jp/nyusi/open.html>

指導を希望する教員と入学後の研究内容について、相談ができます。令和6年度は2回開催を予定していますので、是非ご参加ください。



令和6年度個別相談会日程（事前申込制）

第1回目 令和6年5月20日（月）～5月24日（金） **第2回目** 令和6年10月28日（月）～10月31日（木）

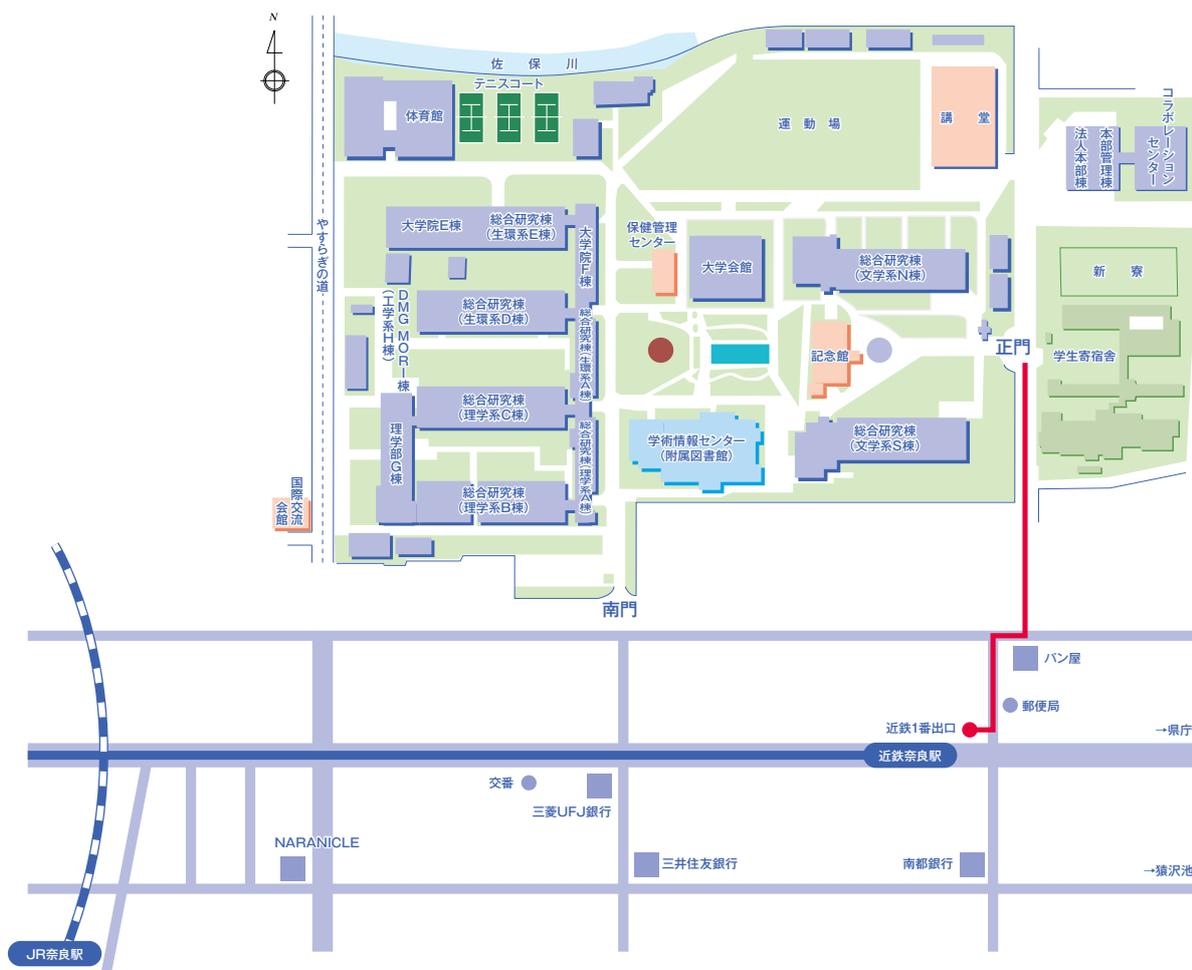
令和6年度 入学者選抜状況 過去の入学者選抜状況はホームページでも確認できます。

博士前期課程

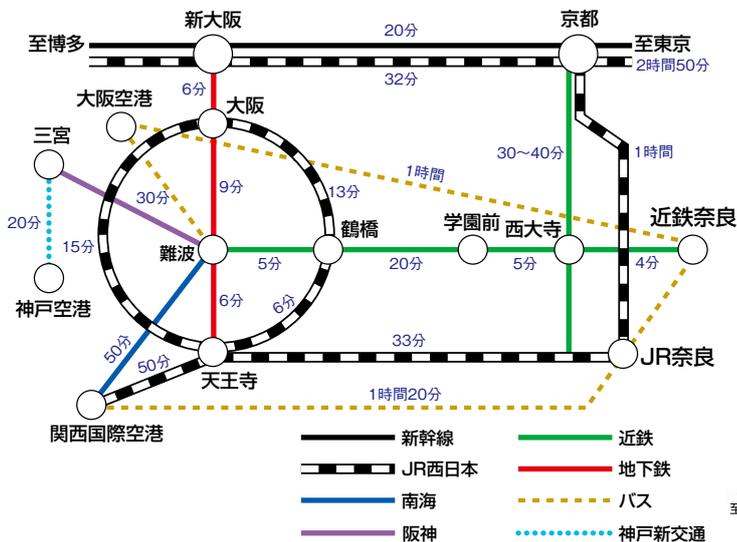
専攻	コース	募集人員	一般選抜				社会人特別選抜				外国人留学生特別選抜				推薦選抜			6年一貫特別選抜			合計						
			志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者	
人文社会学専攻	歴史学コース	24	3	3	3	3	2	2	0	0	1	1	0	0					2	2	2	2	8	8	5	5	
	地理学コース		1	1	1	1	0	0	0	0	2	2	2	0					0	0	0	0	3	3	3	1	
	社会学コース		0	0	0	0	0	0	0	0	12	12	2	2					0	0	0	0	12	12	2	0	
	専攻計		4	4	4	4	2	2	0	0	15	15	4	0					2	2	2	2	23	23	10	6	
言語文化学専攻	日本アジア言語文化学コース	18	6	6	6	3	0	0	0	0	1	1	0	0					1	1	1	1	8	8	7	4	
	ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コース		3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0					1	1	1	1	4	4	4	4	
	専攻計		9	9	9	6	0	0	0	0	1	1	0	0					2	2	2	2	12	12	11	8	
人間科学専攻	教育学・人間学コース	12	4	4	3	2	1	1	1	1	1	1	1	0	0					1	1	1	1	7	7	5	4
	心理学コース		7	7	7	2	1	1	1	1	1	1	1	0	0					1	1	1	1	10	10	9	4
	専攻計		11	11	10	4	2	2	2	2	2	2	2	0	0					2	2	2	2	17	17	14	8
食物栄養学専攻		13	6	6	6	3	0	0	0	0	1	1	0	0					11	11	11	6	18	18	17	9	
心身健康学専攻	生活健康学コース	22	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0					1	1	1	1	3	3	3	3	
	臨床心理学コース		25	25	7	7	3	3	0	0	4	4	0	0					6	6	6	6	38	38	13	13	
	スポーツ科学コース		2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0	0	0	2	2	2	2	
	専攻計		29	29	11	11	3	3	0	0	4	4	0	0					7	7	7	7	43	43	18	18	
情報環境学専攻	衣環境学コース	10	2	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0	0	0	2	2	2	1	
	生活情報通信科学コース		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3	1	2	2	2	2	5	5	5	3	
	専攻計		2	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3	1	2	2	2	2	7	7	7	4	
生活工学共同専攻		7	8	8	8	8	1	1	1	1	1	1	1					3	3	3	3	13	13	13	13		
住環境学専攻		13	24	24	13	0	0	0	0	6	6	0	0					5	5	5	4	35	35	19	17		
生活文化学専攻		9	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	1					1	1	1	1	8	8	7	6		
数物科学専攻	数学コース	28	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2	6	6	6	6	9	9	9	9	
	物理学コース		19	18	16	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	12	12	12	32	30	28	27	
	数物連携コース		2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2	
	専攻計		22	21	19	18	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2	19	18	18	18	43	41	39	38	
化学生物環境学専攻	化学コース	42	25	25	19	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8	8	8	33	33	27	22	
	生物科学コース		8	8	8	6	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	8	8	8	7	17	17	17	14	
	環境科学コース		7	7	7	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	6	6	13	13	13	12	
	専攻計		40	40	34	26	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	22	22	22	21	63	63	57	48	
合計		198	158	157	119	96	10	10	5	5	33	33	8	3	5	5	5	3	76	75	75	68	282	280	212	175	

博士後期課程

専攻名	講座名	募集人員	一般選抜				社会人特別選抜				外国人留学生特別選抜				合計			
			出願者	受験者	合格者	入学者	出願者	受験者	合格者	入学者	出願者	受験者	合格者	入学者	出願者	受験者	合格者	入学者
人文科学専攻	比較文化学講座	12	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	2	2	0	0
	社会人間学講座		2	2	1	0	0	0	0	0	2	2	0	0	4	4	1	0
	専攻計		2	2	1	0	1	1	0	0	3	3	0	0	6	6	1	0
生活環境科学専攻	食物栄養学講座	14	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
	心身健康学講座		3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3	3
	情報環境学講座		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	住環境学講座		1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	2	2	2	2
	生活文化学講座		2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	4	4	3
	専攻計		7	7	7	6	2	2	2	2	1	1	1	1	10	10	10	9
自然科学専攻	数物科学講座	10	5	5	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	5	5
	化学生物環境学講座		3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3	3
	専攻計		8	8	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8	8	8
生活工学共同専攻		2	5	5	5	5	2	2	2	2	0	0	0	7	7	7	7	
計		38	22	22	21	19	5	5	4	4	4	4	1	1	31	31	26	24



交通アクセス



- 京都から**
 - 近鉄京都線で近鉄奈良まで特急約35分、急行45分+徒歩約5分
- 新大阪から**
 - JR東海道本線で大阪駅へ、JR大阪環状線(外回り)で鶴橋へ、近鉄奈良線(快急・急行)で近鉄奈良まで約60分+徒歩約5分
- 大阪から**
 - JR大阪環状線(外回り)で鶴橋へ、近鉄奈良線(快急・急行)で近鉄奈良まで約50分+徒歩約5分
- 難波から**
 - 近鉄奈良線(快急・急行)で近鉄奈良まで約35分+徒歩約5分
- 天王寺から**
 - JR大和路快速でJR奈良駅まで約30分+バス5分+徒歩約5分
 - JR大阪環状線(内回り)で鶴橋へ、近鉄奈良線(快急・急行)で近鉄奈良まで約45分+徒歩約5分
- 大阪空港から**
 - 空港バスで近鉄奈良まで約60分+徒歩約5分
 - 空港バスで難波へ、近鉄奈良線(快急・急行)で近鉄奈良まで約70分+徒歩約5分
- 関西国際空港から**
 - 空港バスで近鉄奈良まで約80分+徒歩約5分
 - 南海空港急行で難波へ、近鉄奈良線(快急・急行)で近鉄奈良まで約110分+徒歩約5分
 - JR関空快速で天王寺へ、JR大阪環状線(内回り)で鶴橋へ、近鉄奈良線(快急・急行)で近鉄奈良まで約100分+徒歩約5分
- 三宮から**
 - 阪神なんば線・近鉄奈良線(快急)で近鉄奈良まで約80分+徒歩約5分
- 神戸空港から**
 - 神戸新交通ポートアイランド線で三宮へ、阪神なんば線・近鉄奈良線(快急)で近鉄奈良まで約100分+徒歩5分



Nara Women's University



奈良女子大学 入試課

〒630-8506 奈良市北魚屋西町

TEL.0742-20-3023

<http://www.nara-wu.ac.jp/>

